會計シタル區分表ヲ添附スベシ

第十五條　工事費支拂區分ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　技術傭員ニ支給スル給料及旅費ハ實際從事シタル工事ニ從ヒ起業費、業務費ニ區分シ起業費支拂フモノトス

二　辨ノモノハ更ニ之ヲ工事番號別ニ分類ヲ爲スベシ

前項ノ區分ハ其ノ他一般ノ支拂ニ就テモ之ヲ準用スルモノトス

第十六條　技術傭員ニシテ給料及諸給與ノ支拂期間ノ中途ニ於テ轉勤シタル場合前任地ニ於テ業務費支辨工事費目ノモノハ給料及旅費ニ限リ前任地所屬ノ工事費ニテ支拂フモノトス

前項ノ場合轉入側ヨリ支拂未濟額通知（樣式第十九號）ヲ受ケ之ヲ證憑書トシテ處理スベシ

第十七條　工事ノ爲借役シタル技術傭員ノ給料及旅費ハ其ノ從事目數ニ應ジ借役側所屬工事費ヨリ支拂フモノトス

第十八條　勤務日數ニ算入スベキ休日其ノ他ノ缺勤ハ總テ前日所屬ノ工事費目ニ依ルベシ但シ出張歸著ノ翌日ノ休日其ノ他ノ缺勤又ハ公傷ニ伴フ缺勤ハ其ノ當日ヨリ業務費支辨工事費目トス

第十九條　工賃及勞役賃ノ支拂ハ每月之ヲ區切リ支拂フモノトス但シ一件ノ工事ニシテ工事期間二箇月未滿ナルトキハ工事竣功後受纏メ支拂フコトヲ得ルモノトス

第二十條　各所長ニ於テ支拂後勘定科目更正ノ必要ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク借方貸方ノ科目及工事名雛算各番號竝ニ事由ヲ庶務課長ニ報告スベシ

第二十一條　受託工事ニシテ社外ヨリノ請求書類ハ成ルベク之ヲ一括シ工事費精算書（樣式第七號）ニ添附シ工事竣功後十日以內ニ庶務課長ニ提出スベシ但シ工事期間長期ニ亘ル場合ハ適宜分割請求スルコトヲ得

第二十二條　物品ノ運搬ヲ鐵道會社ニ委託シタルトキハ運送完了後鐵道輸送報告書（樣式第八號）ヲ提出スベシ

第二十三條　支拂證憑書ハ成ルベク明瞭ニ記載シ殊ニ債權者ノ住所、氏名ハ支拂上錯誤ヲ生ジ易キヲ以テ字畫ヲ判明ナラシメ且住所ハ詳細ニ記入セシムベシ

第二十四條　各所長契約ヲナサントスルトキハ契約規程第四條ニ依リ契約書ヲ徵スベシ之ヲ省略スル場合ハ請書ヲ徵スベシ但シ專決範圍內ニ於テ執行スルモノハ之ヲ徵セザルコトヲ得

第二十五條　支拂要求書又ハ支拂傳票ニ添附スル證憑書類ハ左記各號ニ依ルベシ但シ樣式ナキモノハ適宜調製スルコト

一　技術傭員ノ給料支拂ニハ就業報告書（業式第九號）

一　工賃及勞役賃ノ支拂ニハ使役報告書（樣式第十號）

一　專決範圍內ノ物品代ノ支拂ニハ代金請求書餘白ニ納入檢收ノ月日ヲ朱書スルコト
一　修繕費支拂ニハ修繕請求書
一　竹木伐採又ハ田畑踏荒其ノ他補償費支拂ニハ評定又ハ認定價格調書
一　土地、船車馬又ハ建物ノ一時借入賃支拂ニハ契約書
一　請負工事費ノ支拂ニハ工事檢查調書

第二十六條　領收證ニ押捺スル印章ハ支拂請求書ニ押捺シタルモノト同一ナルヲ要ス

第四節　工務所長專決範圍

第二十七條　各所長ハ通知豫算ノ範圍內ニ於テ左ニ揭グルモノハ專決執行シ得ルモノトス

一　修繕費一件二十圓以內
二　運搬費一件三十圓以內但シ鐵道會社ニ直接託送スルモノハ一件五十圓以內
三　地方購入品一品十五圓未滿ノモノ
四　工賃及人夫賃一件市內地ハ各地別ニ每一箇月、市外地ハ一連續工事ニ百圓以內
五　馬車賃一件右ニ同ジ百圓以內
六　土地、船車馬又ハ建物ノ一時借入一件十圓以內
七　竹木伐採、田畑踏荒其ノ他ノ補償費一件十圓以內
八　路面復舊費、支障物移轉其ノ他ノ委託工事費一件二十圓以內
九　水道、瓦斯、電燈及電力料一件二十圓以內
十　工事命令接受ノモノ又ハ實行豫算ノ承認ヲ經タルモノハ前各號ニ不拘工事費總額五千圓以內ノ工事施行ニ伴フ運搬工賃人夫及馬車ノ使役其ノ他補償費等當該工事費地方購入品ヲ除ク內譯額範圍內ナルトキ
十一　會社ニ於テ期間契約ヲナシ供出單價決定シタル請負人ヨリ勞力ヲ供給セシムルトキハ金額ノ制限ニ依ラズ當該工事費ノ內譯範圍內ナルトキ

第五節　決算

第二十八條　工務勘定ニ關スル決算事務ハ庶務課ニ於テ司掌ス
第二十九條　庶務課ニハ豫決算對照表及物品工費ノ整理表ヲ設ケ各勘定每ニ整理スルモノトス
第三十條　前條豫決算ノ整理ハ左ノ各號ニ依ルベシ
一　業務費支辨工事ハ每月分ヲ取纏メ月次決算トシ翌月五日以內
二　起業費支辨工事ハ竣功ノ日ヨリ二十日以內

前二號ハ何レモ電信、電話、放送及雜ニ區分スルノ外起業費支辨ノモノハ其ノ內譯ニ於テ勘定科目表ニ依ル資本勘定通信施設解疏表ニ依リ分類スベシ

第三十一條　前條ニ依ル諸般ノ整理完了シタルトキハ各所管ニ從ヒ振替傳票ノ發行ヲ爲スベシ

第三章　物　品

第六節　豫算資料

第三十二條　各所長ハ毎年度物品豫算ヲ左ノ各號ニ依リ編成シ前年度五月二十日迄ニ之ヲ所管課ニ提出スベシ

一　業務費豫算ハ電信、電話ノ放送及維用度課請求ノ貯藏品區別シ更ニ之ヲ備品及工事材料ニ分類ヲ修理スル場合等ニシ算出根據ヲ明示シタル上樣式第十一號ニ依ルベシ

二　起業費豫算ハ左記ニ依リ一件毎ニ編成シ樣式第十二號ニ依ルベシ

(一)　起業費工事ヲ以テ裝置スベキ機器、備品ハ工事材料トシテ處理スベシ

(二)　二十圓以下ニシテ裝置セザル備品ハ之ヲ事業費豫算トシテ別ニ編成スベシ

(三)　二十圓以上ニシテ裝置セザル機器ハ之ヲ起業費雜施設豫算トシテ別ニ編成スベシ

第三十三條　提出豫算ニ對シ不足ヲ生ズル場合ハ其ノ事由ヲ詳記シ追加申請ヲ爲スベシ

第三十四條　各課長ハ前條ノ豫算資料書ヲ第二條ノ資料トスベシ

第七節　請求竝ニ配給

第三十五條　工務所所要物品ニ對シテハ總テ配給豫算ノ通知ヲ爲スモノトス配給通知ヲ受ケタルモノニシテ物品取扱主任所在地外ニ現品ノ送付ヲ要スルトキハ直ニ屆先內譯表ヲ庶務課ニ提出スベシ

第三十六條　業務費豫算ノ物品ハ物品規程施行細則第二十四條ニ依ル各期ノ所要數調書ヲ其ノ期ノ二箇月前ニ庶務課長ニ提出スベシ

第三十七條　起業費豫算ノ物品ハ庶務課長ニ於テ請求ノ手續ヲ爲スモノトス

第三十八條　各所長ハ交付物品ニ對シテハ常ニ著否ヲ明瞭ニ爲シ置クベシ

第八節　受　拂

第三十九條　各所長ハ業務費支辨ノ工事材料ヲ使用者ニ交付スルトキハ物品取扱主任所在地ニ在リテハ日々ノ所要數ヲ拂出シ之ヲ一箇月毎ニ取纏メ各勸定科目ニ從ヒ決算スルモノトス但シ物品取扱主任所在地外ノモノ及所在地內ト雖モ之ニ依リ難キ場合ハ約二箇月分以內ノ使用見込數ヲ定メ適宜拂出シ之ヲ決算スルコトヲ得

第四十條　各所長起業費支辨ノ工事材料ヲ使用者ニ交付スルトキハ總テ假拂トシ當該工事竣功ノ時ヲ以テ本拂ト爲シ決算スルモノトス

第四十一條　前二條ニ依リ交付ヲ受ケタル使用者ハ毎旬分ノ受拂數ヲ取纏メ受拂旬報(樣式第十三號)ニ依リ次旬三日以內ニ之ヲ工務所長ニ報告スベシ但シ電機修繕規程ニ依ル受拂ハ工作命令書ニ依ルモノトス

前項受拂旬報ハ正、副及控ノ三通調製ノ上二通ヲ提出セシメ控ハ受拂簿ニ代用スルコトヲ得

第四十二條　各所長ハ工事ヨリ發生ノ不用物品ニ對シテハ不用物品受拂簿ニ依リ受拂ヲ明記シ毎月末現在數ヲ用度課ニ報告スベシ

前項不用物品ノ賣却ニ關シテハ指示ヲ受クベシ

第四十三條　各所長ハ工事ヨリ發生ノ撤去品ニ對シテハ工事現場ニ於テ當該工事ニ使用シ殘餘アルトキハ工事竣功後用度課ニ返納スベシ但シ他ノ工事ニ轉用スルモ妨ゲズ

第四十四條　各所長ハ起業費支辨工事ニ殘品アルトキハ返納スルヲ原則トスルモ他ノ工事ニ振替フルヲ利便ト認ムルトキハ其ノ旨申報スベシ

第四十五條　物品取扱主任ハ毎月末殘高報告書ヲ徵シ常ニ之ヲ監査スベシ

第九節　現地調辨

第四十六條　物品ノ地方購入ハ別ニ定ムル品種又ハ特ニ承認セラレタルモノニ限リ豫算ノ範圍内ニテ購入スベシ

第四十七條　物品ヲ購入セントスルトキハ左ノ要項ヲ記載シタル購入調書ヲ指定請負人ニ示シ見積ラシムベシ

品目、單位、數量、納期、納入場所、仕樣書又ハ見本、開札期日、代金支拂及方法其ノ他ノ契約條

第四十八條　見積書ハ已ムヲ得ザル場合ノ外各當業者二名以上ヨリ之ヲ徵スベシ

第四十九條　物品單價ハ其ノ他最近ノ購入單價ヲ基準トシテ時價ヲ參酌シ豫定價格ヲ定メ其ノ範圍内ニ於テ入札落否ヲ決定スベシ

第五十條　物品ヲ納入シタルトキハ嚴密ニ檢査ノ上合格品ヲ受入ルベシ不合格ノ場合ハ代品納入又ハ解約ノ手續ヲ爲スベシ

第十節　修繕

第五十一條　機器、備品及材料ノ毀損シタルモノニシテ修繕再用ニ堪フルモノハ電機修繕規程ニ依ルモノヲ除ク直ニ修繕スベシ其ノ費用ハ工務支出事務費ヨリ支辨スベシ

第五十二條　第四十九條及第五十條ノ規程ハ前條ノ修繕ヲ請負ハシムル場合ニ之ヲ準用ス

第四章　財産整理

第五十三條　各所長ノ所管スル財産ハ別ニ定ムル財産整理種目表ニ從ヒ各分類整理スルノ外左ノ各號ニ依リ整理スベシ

一　固定資産勘定系統ニ屬スル通信施設、電話施設、放送施設及雜施設ノ内工務施設ニ對スル分ニシテ設備シアルモノハ施設原簿（樣式第十四號）ニ又設備セザルモノハ保管簿（樣式

第十五號）ニ依リ夫々財産ノ現狀ヲ明カニ爲スベシ

二　前號諸帳簿ニ登記スル財産ノ施設年度ハ會社引繼當時ノ施設年度調ヲ基礎トシ爾後ノ增減ハ工事竣功報告若ハ第五十四條減額報告ニ依リ之ヲ整理シ更ニ財産管理者ヨリノ通知ヲ待ツテ登記スベシ

第五十四條　各所長ニ於テ作成スル工事竣功報告書ニハ天災、事變其ノ他不可抗力ニ依リ若ハ盜難、亡失等ニ依ル財産ノ減滅ハ之ヲ含メズ別ニ財産減額報告（樣式第十六號）ヲ爲スベシ

第五十五條　庶務課長ハ第十一條ノ諸報告ヲ基礎トシ決算事務ノ管掌區分ニ從ヒ財産規程施行細行第八條ノ書類ヲ作成シ財産管理者ニ送付スルモノトス

第五十六條　庶務課長ハ必要ニ應ジ各所長備附ノ財産整理ニ關スル諸帳簿ノ提出ヲ要求スルコトアルベシ

第五十七條　財産ノ增減異動ノ基準ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　電話加入者異動工事ハ業務費支辨トシ別ニ財産ニ異動ナキモノト看做ス但シ年度末ノ集計ニ於テ異動アル場合ハ之ガ增減ヲ一括樣式第十七號）ニ依リ技術部長ニ報告スベシ

二　加入者宅内設備工事ハ當該交換局ノ電話機豫備定數ヲモ同一設備ト看做シ之等相互間ノ異動ハ財産ニ增減ナキモノト看做ス

三　前二號以外ノ移轉工事ニシテ品質、形狀及數量ニ異動ヲ來スモノハ起業費支辨トシテ施行シ新設部分ヲ財産增ニ、撤去部分ヲ財産除却トシテ處理スベシ但シ品質、形狀及數量ニ異動ナキモノハ財産ニ增減ナキモノト看做ス

四　機器及機械設備ノ取替又ハ腐朽電柱ノ建替、錆線ノ張替等ハ起業費支辨ト爲シ財産ノ增減ヲ處理スベシ

第五章　雜　則

第五十八條　工務所ニ對シ定メタル工事施行ニ關スル各條ハ特ニ工事命令ヲ受ケタル擔當者ニ之ヲ適用ス

第五十九條　各所長支障物移轉ノ必要生ジタルトキハ其ノ事由及概算額ヲ技術部長宛報告シ指揮ヲ受クベシ

第六十條　起業費支辨ノ工事ニ對シテハ總テ工事番號ヲ、業務費豫算通知ニ對シテハ豫算番號ヲ附スモノトス

本番號ハ各證憑ニ記入スルモノトス

第六十一條　技術部關係經理事務ニ關スル書類ハ他部ニ屬スルモノト雖總テ庶務課長ヲ經由スルモノトス

樣式第一號

工事費整理表

施行期間 件名

著手 年 月 日 款

カード番號

竣功 年 月 日 項

目

變更竣功 年 月 日 年度工番 號

豫算

摘要	傳番 票號	1 傭員給料	2 旅費	3 工賃	4 勞役賃	5 補償費	6 委託工事費	7 運搬費	8 雜費	9 本社材料費	10 地方購入材料費	11	12 合計	摘要

決算

月日	摘要													

樣式第二號

物品受拂簿

No.

新再別　目別　品名　品質形狀　單位

證憑書		摘要	單價	受高		拂高					殘高		同上所在地別內譯					記事
月日	番號			數量	代價				計	代價	數量	代價						

樣式第三號

月分業務費工費材料使用報告

自昭和　年　月　日　　昭和　年　月　日

昭和　年度工番　號　　至昭和　年　月　日　　提出　工務所長

種別	單位	單價	電信		電話		放送		撤去品	
			數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額

様式第四號

工事竣功報告

技術部長殿　　昭和　年　月　日　　昭和　年度工番第　號

件名　　工務所長

著手昭和　年　月　日　　竣功　昭和　年　月　日　　檢査　昭和　年　月　日

款項目　　檢査員

施行地	工事種別	單位	竣功高 數量	工費	物品費	旅費	計	間接費諸割掛%	合計

上記ノ通竣功ヲ確認ス	添附書類	(1) 技術傭員給料報告　通	(2) 工賃勞役費報告　通
		(2) 工事用物品使用報告　通	(4) 應用材料使用報告　通
		(3) 工事發生品戻入報告　通	(6) 財產增減報告　通
		(4) 工事竣功圖面　通	(8) 工事施行要領書　通

様式第四號(其二)

技術補員給料旅費報告

昭和　年度工番　號

工事件名

款　項　目

著手　昭和　年　月　日

竣功　昭和　年　月　日

工務所長

工事種別	職名	給料		同在勤手當		旅費		記事
		延人員	金額		金額	日數	金額	

様式第四號(其三)

工賃勞役賃其他ノ報告

昭和　年度工番　號

工事件名

工務所長

工事種別											
種別	數量	金額		數量	金額		數量	金額		數量	金額

樣式第四號(其四)

提出　昭和　年　月　日　　工材使用報告　　No.

工番第　號　件名　　工事施行箇所

著手昭和　年　月　日　竣功豫定　昭和　年　月　日　　工事擔當者

決算科目　款　項　目　　請直別　請負人

工事種別	請求券		品名	品質形狀	單位	請求兼使用數量	送付券					返納		記事
	月日	番號					月日	番號	單價	金額	割掛	數量	金額	

樣式第四號(其五)

工事發生品使用竝戻入報告

昭和　年度工番　號

工事件名　　工務所長

品名	單位	應用材料使用高		工事發生品戻入高		理地賣却代金	記事
		數量	金額	數量	金額		

様式第四號(其六)　　財産増減報告書

昭和　年度工番　號　　著手　昭和　年　月　日

工事件名　　竣功　昭和　年　月　日

工事ノ結果下記ノ通増減ス　　工務所長

不動産整理種目	稱呼	財産増 數量	財産増 金額	財産減 數量	財産減 金額	記事

様式第四號(其七)　　工事施行要領書

昭和　年度工番　號　　著手　昭和　年　月　日　　竣功　昭和　年　月　日

工事件名　　工務所長

工程別	施行數量	工事方法又ハ工事要領

様式第五號

年度

工番　第　號

電柱番號	木柱注藥	木柱素材	鐵柱	柱間距離	電線 鐵線			銅線	
					鋼線			銅線	
					耗 4.5	〃 3.2	〃 2.3	耗 4.0	〃 3.5

記入心得　増ハ黒書、減ハ朱書ス

様式第六號

工事件名

工事番號	工事種別

様式第五號

線路異動報告

No,

年度　　工事件名

工番　第　號

著手　年　月　日

竣功　年　月　日

電柱番號	木柱注藥	木柱素材	鐵柱	柱間距離	電線條數 鐵線 耗4.5	3.2	2.3	銅線 耗4.0	3.5	2.9	2.0	ケーブル	絶緣線別	支柱種別	支線長側	片側	兩側	片縱	兩縱	三方	四方	腕木 2線用	4線用	6線用	8線用	腕金 線用	線用	線用	碍子 二重大	二重小	茶臺	アングル	其ノ他	地下路管	地中導體	記線函	接續函	室內裝置	記事

記入心得　増ハ黒書、減ハ朱書スベシ

様式第六號

通信施設機器異動報告

工事件名　　工務所長

工事番號	工事種別	品名	單位	增加數量	撤去		撤去再用		記事
					裝置年月	數量	裝置年月	數量	

様式第七號

受託工事費精算報告書

工事件名　　工事番號　　號　　昭和　年　月　日

技術部長殿　　工務所長

種別	單位呼稱	單價	受高	拂高		殘高	委託者へ返却	記事
				數量	金額			
物品費								
委託者提供品								
何々								
本社品使用								本社品ニ割掛ヲ要スルトキ之ヲ爲スベシ

何々									
工費									
何々									
小計									
間接費諸掛%									
合計									

様式第八號

鐵道輸送報告書

昭和　年　月　日

技術部長殿　　工務所長

種別	單位	數量	捆數	運賃	發送		到著		工事名又ハ工番	記事
					月日	驛名	月日	驛名		

様式第九號

職氏名	日給額	駐在地	日 16	17	18	19	20	21

様式第十號

昭和　年度工事第

（款）　（項）　（

工事種別	役務別	単位	日 16	17	18
			1	2	3

記入心得　工事種別　起業費

技術部經理事務處理手續

二〇三

樣式第九號

技術部傭員就業明細報告

昭和　年　自　月　日
　　至　月　日

工務所長

職氏名	日給額	駐在地	日次及就業別																															合計內譯				備考
																																		營業費			起業費	
			16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	電信	電話	放送		

様式第十號

職工人夫馬車使役報告

昭和　年度工番第　號　工事件名　工務所長

昭和　年　月　日著手　係長

（款）（項）（目）　昭和　年　月　日竣功　勞力供給者　監督者

工事種別	勞役別	單位	日別使役延人員 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 / 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	小洋銀建 員數	小洋銀建 單價	小洋銀建 小洋銀	小洋銀建 換算	金建 員數	金建 單價	金額	記事

記入心得　工事種別ニハ電信、電話、放送トシ起議費ナルトキハ工事番號ヲ記入スヘシ

様式第十一號

業務費物品豫算書

昭和　年　月　日

技術部長殿　　工務所長

品名	單位	前一箇年使用高 電信	電話	放送	計	單價	本年度所用見込數 電信 數量	電信 金額	電話 數量	電話 金額	放送 數量	放送 金額	計 數量	計 金額

樣式第十二號(其一)

起業費工事豫算書

技術部長殿　　昭和　年　月　日

設計總額　　工務所長

種別	單位	單價	總額		右內譯				撤去		記事
			數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	

樣式第十二號(其二)

起業費雜施設機器豫算書

昭和　年　月　日

技術部長殿　　工務所長

品名	單位	數量	單價	合價	事由

様式第十三號

昭和　年　月　旬分物品受拂報告書

（正、副、控）　　報告者

品名	受越	使用内譯 1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	計	殘

記入心得

(1) 正副控三通ヲ作成二通ヲ提出シ控一通ハ受拂簿ニ代用スベシ　(2) 撤去品ハ左肩ニ朱書スベシ但シ現場ニ於テ撤去再用シタルモノハ記入ニ及ベズ　(3) 起業費ハ工事番號毎ニ業務費ハ電信、電話、放送ニ區別シテ報告スベシ　工務所長ハ本報告ニヨリ次旬又ハ次期交付ノ資料トスベシ又假拂ノモノハ本拂トスベシ

様式第十四號

施設原簿

款項目　　（整理種目）

工事年度及番號	竣功年月日	整理番號	所在地名	品名	單位	數量	金額

様式第十五號

保管原簿

整理番號　　品名　　壽命年數

交付又ハ異動 年月日	交付又ハ異動 番號	數量	價格	保管箇所内譯	記事

様式第十六號

財産減額報告書

款　　技術部長殿

項　　昭和　年　月　日

目　　工務所長

所在	減 番號	減 年月日	整理番號又ハ位置	整理種目	構造及寸法	單位稱呼	數量	價格	減額事由

様式第十七號

局年度加入者異動工事ニ伴フ財産増減報告

技術部長殿　　昭和　年　月　日　　工務所長

種別	單位	數量 増	數量 減	減ニ對スル施設年度	摘要

様式第十八號

年度工事費繰越決算書

工事名　　工事番號第　號

翌年度竣功豫定期昭和　年　月　日

著手昭和　年　月　日　　工務所長

種別	豫算額	本年度内施行額 支出濟額	本年度内施行額 支出未濟額	本年度内施行額 計	翌年度へ繰越額	記事
物品費						
本社交付費						
地方購入費						

工費									
傭員給料									
工賃									
何々									
合計									

記入心得　翌年度ヘ繰越額ニ對シテハ內譯明細表添附スベシ

樣式第十九號

技術傭員支拂未濟額通知書

昭和　年　月　日

工務所長殿　　　　　　　　　　　　工務所長

發令月日	職名	給料		駐在地		氏名	就業別日數及出張												其ノ他手當	
				前任	後任		駐在地	外勤	宿泊	乘車	駐在地	外勤	宿泊	乘車	駐在地	外勤	宿伯	乘車	金額	

備考

記入心得
缺員其ノ他ノ必要事項ハ備考欄ニ記入スルコト　起業支辨ノ分ハ前任地ノ豫算ヨリ支拂フモノトス
就業日數欄ニハ電信、電話、放送又ハ工事番號ヲ記入スルコト

◆市内電話用「ケーブルハンガー」ノ間隔ニ關スル件

昭和九年（康德元年）三月二十三日〔技術部長ヨリ各工務所（無線工務所ヲ除ク）長宛〕
技線第一〇三號〔例規〕

右ニ對シ爾今左記ニ依リ施行相成度

記

ケーブル種別	ハンガー間隔
五十對以下	一米
百對以上	六十糎

技術關係規定類　第二類　線路、機械試驗並ニ保守

◆電信及市外電話回線試驗規程

昭和八年(大同二年)九月一日
達第三〇號

第一條　電信及市外電話回線ノ試驗事務ハ別ニ定ムル試驗擔當區域ニ從ヒ本規程ニ依リ處理スルモノトス但シ特ニ試驗ノ執行方法ヲ指定スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　本規程ニ於テ線條ト稱スルハ線種ノ如何ヲ問ハズ局外線及引込線ヲ包含シ回線ト稱スルハ線條及裝置機械ノ一切ヲ包含スル直接通信連絡ノ一系統ヲ謂フ

第三條　試驗ヲ分チテ左ノ二種トス

一　平常試驗

二　障碍試驗

第四條　平常試驗ハ回線平時ノ狀態ヲ檢測スルヲ目的トシテ之ヲ分チテ左ノ十種トス

一　回線試驗
二　線狀試驗
三　ケーブル試驗
四　海底線試驗
五　電池試驗

六　着流試驗
七　通信速度試驗
八　通信機械試驗
九　通話試驗
十　地中導體試驗

但シ市外電話回線ニアリテヘ前記第一、五、六、七、八、各項ノ試驗ヲ執行セズ

第五條　回線試驗及通話試驗ハ左記各號ニ依リ一、四、七、十ノ各月一回之ヲ施行スベシ

一　回線試驗ハ導體絕緣兩抵抗ヲ略同時ニ檢測スベシ

二　回線ノ兩端何レモ試驗執行地ニ引込ミタル場合ハ其ノ兩端試驗執行地ニ於テ又回線ノ一端ノミ試驗執行地ニ引込ミタル場合ハ該試驗執行地ニ於テ檢測スベシ但シ回線ノ中間ニアル試驗執行地ニ於テハ檢測セズ

三　回線ノ兩端何レモ試驗執行地ニ引込マズ其ノ中間ノミ試驗執行地ニ引込ミタル場合ハ該試驗執行地ニ於テ回線ヲ兩分檢測スベシ

四　電信回線ニ於テ自働中繼機ヲ裝置シタル回線ハ該機ヲ以テ回線ノ終端ト看做ス

五　前各號ノ試驗ハ其ノ回線ガ試驗擔當區域外ニ亘ルモ其ノ終端迄檢測シ自局通信機ハ之ヲ除クモノトス

第六條　線條試驗ハ左記各號ニ依リ毎年一、四、七、十ノ各月ニ一回導體絕緣兩抵抗ヲ略同時ニ檢測スベシ

前項ノ試驗ガ他ノ試驗執行地ノ試驗ニ關聯セル回線ニアリテハ豫メ檢測日時ヲ協定シ各執行地共略同時ニ其ノ擔當區域ニツキ檢測スベシ市外電話回線ニ於テ中繼機ヲ裝置スル回線ハ該機ヲ以テ線條ノ終端ト看做ス

第七條　ケーブル試驗ハケーブルヲ裸線ト分離シ毎年二、四、七、十ノ各月一回可成降雨後ヲ見計ヒ其ノ導體絕緣兩抵抗ヲ檢測スベシ

前項ノ絕緣抵抗試驗用電壓ハ水底線ハ三〇ヴオルト地下線及架空線ニ在リテ一〇〇ヴオルトヲ以テ標準トス

第八條　海底線ハ陸線ト分離シ導體、絕緣兩抵抗竝ニ靜電容量ヲ隔月一回檢測スベシ

但シ短距離海底線ニ在リテハ試驗回數ヲ適宜減ズルコトヲ得

第九條　電池試驗ハ試驗執行地ニ裝置シタル電池ニ對シ其ノ起電力內部抵抗ヲ毎月一回檢測スルモノトス

但シ二次電池其ノ他特殊ノモノニアリテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十條　著流試驗ハ試驗執行地ニ引込ミタル回線ニ接續セル各局所ヨリノ著電流ヲ試驗擔當區域ニ從ヒ二、四、六、八、十、十二ノ各月一回檢測スルモノトス

第十一條　速度試驗ハ左記各號ニ依リ毎月一回以上檢測スベシ

一　ホ井ートストン自働回線及現波回線ニアリテハ何レモ二重裝置ニテ完全ニ通信シ得ル最高速度ヲ檢測スルモノトス

二　前項ノ試驗ハ回線ノ兩端ガ試驗執行地ナルトキハ其ノ兩地ニ於テ回線ノ一端ノミ試驗執行地ナルトキハ該地ニ於テ檢測スベシ

三　手盜回線ニ在リテハ特ニ必要アリト認メタル場合ノ外之ヲ省略スルコトヲ得

第十二條　通信機械試驗ハ各通信機械ノ良否ヲ檢測スルモノニシテ試驗執行地ニ於テハ隨時之ヲ執行スベシ

第十三條　地中導體試驗ハ試驗執行地ニ埋設セル地中導體ノ抵抗ヲ二、八ノ各月一回檢測スルモノトス

第十四條　試驗執行地ニ引込ミナキ回線ノ第五條、第六條、第七條及第十條ノ試驗竝ニ試驗執行地以外ノ各局所ニ於ケル平常試驗ハ試驗擔當技術者出張巡回ノ際之ヲ檢測スベシ

第十五條　前各條ノ試驗ハ其ノ都度左記樣式ニ從ヒ其ノ試驗成績竝ニ所要意見ヲ記載シ翌月十日迄ニ

所屬管理處技術科長ニ報告スベシ

一　回線試驗報告　樣式第一號
二　線條試驗報告　樣式第二號
三　ケーブル試驗報告　樣式第三號
四　海底線試驗報告　樣式第四號
五　電池試驗報告　樣式第五號
六　著流試驗報告　樣式第六號
七　通信速度試驗報告　樣式第七號
八　通信機械試驗報告　樣式第八號
九　通話試驗報告　樣式第九號
十　地中導體試驗報告　樣式第十號

第十六條　障碍試驗ハ回線障碍ノ場合其ノ試驗擔當區域ニ從ヒ適宜ノ試驗方法ニ依リ其ノ障碍種類及障碍位置ヲ檢測スルモノトス

第十七條　第七條、第十一條及第十六條ノ試驗ニシテ試驗擔當二區域ニ跨リ且一方試驗執行地ニ引込マザル回線ニ在リテハ試驗擔當區域ニ拘ラズ該線ヲ引込ミタル試驗執行地ニ於テ之ヲ檢測スベシ

電信及市外電話回線試驗規程

線ノ連絡關係其ノ他ノ事情ニ依リ他ノ試驗執行地ニ於テ檢測スルヲ適當ト認ムル場合ハ之ヲ該試驗執行地ニ委囑スルコトヲ得此ノ場合委囑ヲ受ケタル試驗執行地ハ特別ノ事由アルニ非ザレバ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十八條　試驗擔當技術者ハ試驗執行上必要アル場合ハ關係各局所ニ對シ回線ノ活用、代用、交叉又ハ切放シ等回線ノ手配措置ヲ要求スルコトヲ得此ノ場合要求ヲ受ケタル局所ニ於テハ技手工務員等不在又ハ他ノ理由ニ依リ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十九條　回線障碍ヲ發見シタルトキハ左記樣式ニ倣ヒ回線障碍報告書、障碍原因報告書及通信障碍報告書ヲ提出スベシ

一　回線障碍報告　樣式第十一號
二　障碍原因告告　樣式第十二號
三　通信障碍報告　樣式第十三號

第二十條　回線障碍報告ハ障碍ノ發生竝ニ恢復ノ都度局報又ハ便宜ノ方法ヲ以テ所屬管理處技術科長、該線路擔當者及障碍地ノ前後兩局所ニ即報スルノ外左記各項ノ場合ハ本社技術部長ヘ詳細報告スベシ

一　回線ニ異常ノ現象ヲ認メタルトキ

二　一時ニ多數回線障碍ヲ生ジタルトキ

三　重要回線ニシテ罹障時間長期ニ亘ルトキ

試驗執行地ニ引込マザル回線ノ障碍及恢復ハ其ノ障碍試驗施行技術者ヨリ當該試驗執行地ノ試驗擔當者ヘモ即報スベシ

第二十一條　電信回線ト市外電話回線ト混線障碍ノ場合ハ電信回線ヲ活用スルヲ原則トシ當該試驗執行地ノ電話試驗擔當者ヨリ前記報告ノ手續ヲナスベシ但シ活用ノ途ナキトキハ此ノ限ニ非ズ

第二十二條　不通ノ爲障碍又ハ恢復ニ關スル報告ヲ局報又ハ電話ニテ通報ノ途ナキトキハ最近ノ障碍ナキ局ヘ別使又ハ郵便ヲ以テ通報スベシ

第二十三條　障碍原因報告ハ擔當區內ニ起リタル回線障碍ニ對スル原因ヲ其ノ都度調査シ障碍恢復ノ日ヨリ七日以內ニ所屬管理處技術科長ニ報告スベシ

第二十四條　通信障碍報告ハニ試驗擔當者駐在ノ電報電話局長ニ於テ自局ニ接續ヲ有スル各線ノ障碍ニ對シ一箇月分取纏翌月十日以內ニ所屬管理處營業科長ニ報告スベシ

第二十五條　電信及市外電話回線ニ障碍ヲ生ジタル場合ハ試驗擔當技術者ハ關係局所ト協議ノ上臨機回線又ハ通信方式ヲ變更シ若ハ回線ヲ活用又ハ代用スルコトヲ得

前項試驗擔當技術者ニ於テ該措置ニ際シ協議スルノ遑ナキトキハ執行直後ニ關係局ニ通報スベシ

樣式第一號　○　○

年　月分　**電信回線試驗成績表**　試驗執行地

試驗		回線名	區間		里程	接續局數	導體抵抗	絕緣抵抗 線條及大地間		天候 執行地		天候 端局		溫度（華氏）		記事	測定者
日	時分		自	至			實測（オーム）	實測（メグオーム）	每粁（メグオーム）	前夜	當日	前夜	當日	執行地	端局		

樣式第二號　○　○

年　月分　**電信話線條試驗成績表**　試驗執行地

試驗		回線名	區間		里程	導體抵抗		絕緣抵抗 往復兩線間	絕緣抵抗 線條及大地間		天候 執行地		天候 端局		溫度（華氏）		記事	測定者
日	時分		自	至	（粁）	實測（オーム）	每粁（オーム）	實測（メグオーム）	實測（メグオーム）	每粁（メグオーム）	前夜	當日	前夜	當日	執行地	端局		

記入心得　一　市外電話回線ノ線條及大地間絕緣抵抗ハ之ヲ往復兩線ニ分チ檢測シ往線ハ上方ニ復線ハ下方ニ記載スベシ

二　電信及市外電話線ハ夫々別用紙ニ記入スベシ

様式第三號

年　　月分　　市内外「ケーブル」線條試驗成績表　　試驗執行地

試驗 月	試驗 日	局所名	使用別	種類（對又ハ芯）	亘長（粁）	絶縁抵抗、メグオーム 線間	L1大地間	L2大地間	天候	温度（度）	記事	測定者

記入者心得　一　「ケーブル」心線亘長各欄ハ局ヨリ「ケーブルヘツド」開キニ至ル途中心線數ヲ異ニスル「ケーブル」ニ接續セラレタル場合ハ各別ニ其ノ長サヲ記入之ヲ合計シ又局ヨリ同一心線數「ケーブル」ニテ「ヘツド」ニ開キタル場合ハ合計欄ノミヲ使用ス

二　特殊ノ狀況ヲ發見シタル時ハ其ノ原因等參考トナルベキ事項ヲ摘要欄ニ詳記スベシ

様式第四號

Manchuria Telephone & Telegraph Company, Dairen.

REPORT OF THE CABLE TESTING.

.....SECTION.

Test taken at　Hei-Shih-Chiao

Length in knots.....N.M.

Temperatures { Testing room.....F. / Sea .....E.

CONDUCTOR RESISTANCE

True zero

Testing Method =.....

Testing Voltage =.....

Zinc to line.	Copper to liue	Mean	Mean per kt	Remarks

INDUCTIVE CAPACITY

Capacity of Standard Condenser =..... Testing Methop =.....

Detlection of Caivo. =..... Testing Voltage =.....

Mult. Power of shunt =..... Galvo, Constant =.....

Deflection,	Total	Per kt	Remarks

INSULATION RESISTANCE

Standard resistance =..... Testing Method =.....

Deflection of Galvo. =..... Testing Voltage =.....

Mult. power of Shunt =..... Galvo, Constant. =.....

Elect. Minutes	Zinc to Line.			Copper to Line			Remarks
	Deflection.	Total.	Per kt.	Deflection.	Total.	Per kt.	
1							
2							
3							
4							
5							

NOTE:—Conductor resistance in OHMS. (B. T. unit), Inductive Capacity in M. F. D., Insulation resistance in MEGOHMS (B. T. unit).

様式第五號

試驗執行地

年　　月分　　一次電池試驗成績表

試驗 月	試驗 日	用途	種類	箇數 直列	箇數 並列	起電力實測（ヴオルト）	短絡電流（ミリアムペア）	平均起電力（ヴオルト）	平均抵抗（オーム）	温度（華氏）	記事	測定者

記入心得　電池ノ新造改造等ノ月日及電壓ノ低キモノ及内部抵抗ノ大ナルモノ等アルトキハ原因ヲ調査シ其ノ結果ヲ詳細ニ記入スベシ

様式第六號

試驗執行地

年　　月分　　著流試驗成績表

試驗 日	試驗 時分	回線名	電池 種類	電池 箇數	接續局名	蓄電流（ミリアムペア）	天候 執行地	天候 局端	温度（華氏）	記事	測定者

様式第七號　　○　　○

試驗執行地

年　　月日　速度試驗成績表

試驗 月日	試驗 時分	回線名	通信方式	通信速度 送信	通信速度 受信	天氣 執行地	天氣 中繼機局	天氣 端局	記事	測定者

注意　二重通信時ニ於ケル最高速度ヲ記入スベシ

様式第八號　　○　　○

試驗執行地

年　　月分　通信機械試驗成績表

試驗 月	試驗 日	局所名	回線名	通信方式	機械名	製作所	製作年月日番號	試驗成績 導體抵抗(オーム)	試驗成績 絶緣抵抗(メグオーム)	試驗成績 接點其他	記事	測定者

樣式第九號　○　○

試驗執行地

年　月分　市外電話通話試驗成績表

試驗		回線名	試驗成績			天候		溫度		記事	測定者
月	日		明瞭度	雜音	漏話	端局	執行地	端局	執行地		

記入心得　雜音、漏話等アルトキハ原因ヲ調査シ其ノ結果ヲ詳記スベシ

明瞭度ハA.B.Cニ分チAハ通話明瞭ニシテ何等支障ナキモノ
Bハ通話明瞭ナラザルモ通話ノ目的ヲ達シ得ルモノ
Cハ通話不明瞭ニシテ公衆通話トシテ不適當ナルモノニ別チ記入スベシ

樣式第十號　○　○

試驗執行地

年　月分　地中導體試驗成績表

試驗		局所名	埋設年月日 埋替	埋設位置	形狀	土質及深サ	抵抗（オーム）	前回測定ニ對シ抵抗ノ增減	天候	溫度	記事	測定者
月	日											

記入心得　試驗方法竝ニ假設導體等ヲ記事欄ニ記入スベシ

様式第十一號

回線障碍報告記入例

一　障碍ノ起リタルトキノ例

七日
午前十時五十分大連奉天一番線蓋平大石橋間地氣試驗擔當者
七ヒ
セ一〇、五〇レンホウ一ガイヘイタイセキケウ(フイ)シケン

二　障碍ノ恢復シタルトキノ例

十日
午後五時大連奉天一番線全通試驗擔當者
一〇ヒ
コ五、レンホウ一(フワ)シケン

様式第十二號

第　號
昭和　年　月　日

何々管理處技術科長殿

障碍原因報告

何々工務所長

障碍ニ罹リタル回線名			
障碍ニ罹リタル月日時分	月	日午前後	時　分
障碍ノ發生ヲ通報シ來タル電報原局ノ發信月日時分	月	日午前後	時　分
障碍報ヲ接手シタル月日時分	月	日午前後	時　分
工手派遣シタル月日時分	月	日午前後	時　分

障碍ノ恢復シタル時間	月　日午前後　時　分
障碍報ヲ接手ヨリ恢復迄ノ時間	時　分間
障碍箇所	何號間電柱何號間
障碍種類	
障碍當時ノ天候	
地勢	
原因	
修理ノ爲派遣シタル工手氏名	
記事	

樣式第十三號

第　號

昭和　年　月　日

何々管理處長殿

通信障碍報告（昭和　年　月分）

何々局長

月日	回線名	罹障時分	恢復時分	障碍位置	障碍ノ狀況	記事

◆電信回線試驗擔當區域　昭和八年（大正二年）九月一日逓第七十三號

試驗執行地	試驗擔當區域
大連	大石橋以南
奉天	大石橋營口間
	大石橋（局内ヲ除ク）四平街（局内ヲ除ク）間
	奉天本溪湖間
	奉天通化間
	奉天朝陽鎭間
	奉天打虎山間
安東	安東新義州岸間
	安東本溪湖（局内ヲ除ク）間
	安東海城間
新京	新京四平街間
	新京下九臺間
	新京陶賴昭間
錦州	打虎山（局内ヲ除ク）山海關間
吉林	熱河省一圍
	林吉林下九臺（局内ヲ除ク）間
	吉林朝陽鎭間
	吉林圖們口間
	吉林榆樹間
	吉林五常間
	吉林寧古塔間
哈爾濱	哈爾濱陶賴昭間
	哈爾濱榆樹（局内ヲ除ク）間
	哈爾濱五常（局内ヲ除ク）間
	哈爾濱綏芬河間
	哈爾濱虎林間
	哈爾濱克山間
	哈爾濱安達（局内ヲ除ク）間
	哈爾濱黑河間

齊々哈爾	齊々哈爾泰來間
	齊々哈爾海倫間
	齊々哈爾克山間
	齊々哈爾大黑河間
	齊々哈爾安達間
	齊々哈爾滿洲里間
洮南	安達克山間
	泰來（局內ヲ除ク）四平街間

試驗執行地ニ引込マザル電信回線ノ障碍試驗ハ左記ニ據リ施行スベシ

障碍試驗執行地	障碍試驗執行回線
營口	營口市內系電信線
	營口海城線
	營口溝幫子線
遼陽	遼陽市內系電信線
鐵嶺	鐵嶺市內系電信線

溝幫子	溝幫子北鎭線
新民	新民彰武線
	新民法庫線
彰武	彰武哈爾套街線
朝陽	朝陽北票線
	朝陽赤峰線
朝陽	朝陽承德線
隆化	隆化豐寧線
承德	承德經棚線
	承德瀋平線
通化	通化桓仁線
	通化輯安線
	通化海龍線
	通化臨江線
臨江	臨江撫松線
開原	開原海龍線

海城	陽原法庫線
	海城莊河線
陶賴	陶賴昭榆樹線
	陶賴昭伯都訥線
磐石	磐石構何線
敦化	化敦化額穆線
延吉	延吉琿春線
	延吉龍井村線
	延吉汪清線
五常	常榆樹五常線
海林	林海林延吉線
	海林綏芬河線
	海林小三岔口線
綏芬河	綏芬河東寧線
甸新	甸新木蘭線
方正	方正延壽線
	方正通河線

富錦	富錦寶淸線
	富錦綏賓線
當錦	當錦撫遠線
綏化	綏化綏稜線
	綏化望奎線
海倫	海倫奇克線
	海倫拜泉線
黑河	奇克黑河線
克山	克山克東線
	克山拜泉線
	克山泰安鎭線
開通	通開通騰榆線
洮南	洮南突泉線
	洮南開通線
遼源	遼源通遼線
伯都訥	伯都訥肇東線
	伯野訥大賚線

瀋	溝瀋溝奉東線	
	瀋溝青崗線	
呼	蘭呼蘭蘭西線	
	呼蘭巴彥線	
拜	泉拜泉安達線	
	拜泉青崗線	
木	蘭木蘭巴彥線	

市外電話回線試驗擔當區域

試驗執行地	試驗擔當區域
大連	大石橋以南
	大石橋營口間
奉天	大石橋（局內ヲ除ク）四平街間（局內ヲ除ク）
	奉天本溪湖間
	奉天海龍間
	奉天打虎山間
	奉天通化間

安	東本溪湖（局內ヲ除ク）新義州岸間	
	安東輯安間	
	安東青堆子間	
	安東寬甸間	
新	京新京四平街間	
	新京下九臺間	
	新京陶賴昭間	
吉	林吉林下九臺間（局內ヲ除ク）	
	吉林海龍間	
	吉林圖們江間	
	吉林五常間	
	吉林寧古塔間	
哈爾濱	哈爾濱陶賴昭間（局內ヲ除ク）	
	哈市五常間（局內ヲ除ク）	
	哈市綏芬河間	
	哈市安達間（局內ヲ除ク）	

齊々哈爾	哈市克山間	
	哈市奇克間	
	齊々哈爾泰來間	
	齊々哈爾安達間	
	齊々哈爾克山間	
	齊々哈爾富拉爾基間	
錦	安達克山間	
	州打虎山（局內ヲ除ク）山海關間	
洮	錦州朝陽間	
	南泰來四平街間	

試驗執行地ニ引込マザル回線ノ障碍試驗執行擔當區域及試驗執行地ハ左ノ通トス

障碍試驗執行地	障碍試驗執行回線
昔蘭店	金州昔蘭店電話線
	昔蘭店三十里堡電話線
	昔蘭店瓦房店電話線

市外電話回線試驗擔當區域

瓦房店	昔蘭店雞子窩電話線	
雞子窩	瓦房店熊岳城電話線	
大石橋	雞子窩城子疃電話線	
	蓋平大石橋電話線	
	熊岳城大石橋電話線	
鞍山	大石橋營口電話線	
遼陽	大石橋海城電話線	
	大石橋分水電話線	
鐵嶺	海城鞍山電話線	
	鞍山遼陽電話線	
	營口遼陽電話線	
開原	嶺新臺子鐵嶺電話線	
	鐵嶺開原電話線	
	原開原昌圖電話線	
四平街	開原四平街電話線	
	開原公主嶺電話線	
	街雙廟子四平街電話線	

公主嶺	四平街郭家店電話線
	四平街公主嶺電話線
	郭家店公主嶺電話線
	公主嶺范家屯電話線
	公主嶺劉房子電話線
營口	營口海城線
	營口溝幫子線
通化	通化輯安線
	通化山城子線
	通化長白線
	通化桓仁線
輯安	輯安臨江線
松樹鎮	松樹鎮八道江線
	松樹鎮安圖線
磐石	磐石樺甸線
鐵嶺	嶺鐵嶺法庫門線
開原	開原海龍線

四平街	四平街鄭家屯線
	四平街梨樹線
公主嶺	公主嶺伊通線
	公主嶺黑林子線
范家屯	范家屯黑林子線
敎化	敎化額穆線
延吉	延吉龍井線
	延吉琿春線
	延吉寧古塔線
沙蘭鎮	東京鎮沙蘭鎮線
陶賚昭	陶賚昭大賚線
	陶賚昭五常線
海林	海林寧古塔線
	海林綏芬河線
	海林一面坡線
綏芬河	綏芬河東寧線

綏化	綏化綏稜線
綏化	綏化望奎線
海倫	海倫望奎線
	海倫三道鎮線
	海倫通北線
	海倫奇克線
克山	克山通北線
	克山拜泉線
	克山寧年線
	克山泰安線
	克山克東線
拜泉	拜泉三道鎮線
滿溝	滿溝青崗線
	滿溝肇東線
安達	安達拜泉線
小蒿子	小蒿子林甸線

鄭家屯	鄭家屯通遼線
新民	新民府哈爾套街線
打虎山	打虎山彰武線
溝幫子	溝幫子北鎮線
凌源	凌源建平線
承德	承德朝陽線
	承德灤平線
	承德赤峰線
隆化	隆化豐寧線
赤峰	赤峰朝陽線
	赤峰經棚線
新甸	新甸木蘭線
富克錦	富克錦三姓線
	富克錦綏濱線
	富克錦賓清線
鶴立河	富克錦圖江線
	鶴立河虎林線

市外電話回線試驗擔當區域

寬	甸寬甸沸石河口線
海	龍海龍山城子線
	海龍朝陽鎭線
	龍海西安線
	海龍東豐線
東	豐東豐西豐線
朝	陽鎭朝陽鎭輝南線
呼	蘭呼蘭巴彥線
鄭	家屯鄭家屯四平街線

◆電信、電話、無線電信、無線電話線路機械保守擔當區域

昭和八年（大同二年）九月一日逓第三五號
昭和九年（康德元年）四月一日逓第六一號

所名	位置	保守擔當區域
本社直轄管內		
大連工務所	大連市大山通一番地	關東州及復州、蓋平、營口、海城（鞍山市內ヲ除ク）以上各縣社員養成所但シ大連無線工務所擔當區域ヲ除ク
大連工務所沙河口出張所	大連市白金町二二	出張所ノ擔當區域ハ工務所保守區域ニ含マル、以下同ジ
大連工務所旅順出張所	旅順市朝日町一番地	
奉天工務所	奉天春日町一一	滿鐵附屬地及新民府市內ノ內
奉天工務所鞍山出張所	鞍山北一條ノ一	鞍山四平街間、渾河撫順間竝奉天城、本溪湖
奉天工務所遼陽出張所	遼陽昭和通二番地	

奉天工務所撫順出張所	撫順中央大街	
奉天工務所鐵嶺出張所	鐵嶺宮島町二ノ二四	
奉天工務所四平街出張所	四平街中央大街二五	
奉天工務所奉天城內出張所	奉天省奉天城內	
新京工務所	新京大和通三〇	滿鐵附屬地ノ內新京四平街間（四平街市內ヲ除ク）竝楡樹、肇州、大賚、扶餘、長嶺、農安、新京、德惠、懷德、隻陽、九臺及伊通以上各縣但シ新京無線工務所擔當區域ヲ除ク
新京工務所新京城內出張所	吉林省永吉縣新京二馬路	
安東工務所	安東大和通四ノ二	寬甸、安東、鳳凰城、岫巖及莊河以上各縣竝本溪縣ノ內橋頭、連山關、草河口各局及安東局新義州江岸間
吉林工務所	吉林省永吉縣吉林三義廟胡同	琿春、延吉、汪清、和龍、敦化、樺甸、磐石、永吉、舒蘭、額穆以上各縣
大連無線工務所	大連市大山通	大連無線電報局、同柳樹屯送信所、同沙河口受信所及大連放送局
大連無線工務所沙河口出張所	大連市沙河口	
大連無線工務所柳樹屯出張所	柳樹屯和尙島	
奉天無線工務所	奉天春日町一一	奉天無線電報局、奉天無線送信所、奉天無線受信所及奉天放送局
奉天無線工務所北大營出張所	奉天北大營	
奉天無線工務所南門外出張所	奉天南門外	
新京無線工務所	新京大和通三〇	新京寬城子送信所、同孟家屯受信所及新京放送局
新京無線工務所寬城子出張所	新京郊外寬城子	
新京無線工務所孟家屯出張所	新京郊外孟家屯	
奉天管理處管內		
瀋陽工務所	奉天省奉天城內	安圖、長白、撫松、濛江、臨江、輝南、柳河、通化、輯安、海龍、東豐、新濱、桓仁、西安、西豐、鐵嶺、撫順、本溪（橋頭、連山關、草河口局ヲ除ク）、遼陽、臺安、奉天、新民、開原、法庫、昌圖、彰武、康平、梨樹、隻山、遼源、通遼、謄榆、開通、安廣、洮南、突泉、洮安、鎭東、遼中、金川、淸原　以上各縣竝興安省南分省、熱河省ノ內開魯、阜新間但シ奉天、新京工務所、奉天無線工務所擔當區域ヲ除ク

技術關係規定類　第三類　電機修繕

電信、電話、無線電信、無線電話線路機械保守擔當區域　二五四

錦州工務所	奉天省錦縣州驛前	黑山、盤山、北鎭、義州、錦西、興城、綏中、臨榆縣竝熱河省（開魯阜新間ヲ除ク）、興安省內西分省　以上各
哈爾濱管理處管內		
哈爾濱工務所	吉林省濱江縣	大黑河、琿琿、奇克特、龍鎭（北安鎭ヲ含ム）、通北、海倫、青岡、望奎、蘭西、肇東、呼蘭、濱江、巴彥、綏化、綏楞、賓州、阿城、雙城、五常、木蘭、延壽、珠河、葦河、寧安、方正、通河、依蘭、樺川、富錦、同江、撫遠、饒河、虎林、寶淸、密山、勃利、東寧、穆稜、慶城、鐵驪、湯原、蘿北、佛山、鳥雲、遜河、鳳山、綏寧及東興　以上各縣
	哈爾濱南崗	
齊々哈爾工務所	黑龍江省龍江縣	漠河、呼瑪、嫩江、訥河、德都、布西、克山、克東、拜泉、明水、安達、林甸、泰來、泰康、景星、龍江及甘南、富裕、依安　以上各縣竝ニ興安省內東分省及北分省
	齊々哈爾新開路	

◆ **電機修繕規程**　昭和八年（大同二年）九月一日
逓第七七號

第一條　電機ノ修繕事務ハ別ニ規定スルモノノ外本規程ニ依リ之ヲ處理スベシ

第二條　本規程ニ於テ電機ト稱スルハ電信、電話、無線電信、無線電話、放送無線電話、電氣信號用機械及其ノ附屬物品ヲ謂フ

第三條　各局所ニ於テ電機ノ修繕（洗滌ヲ含ム）ヲ要スルモノアルトキハ勘定科目別電機修繕請求書（附錄第一號樣式）ヲ作製之ヲ其ノ擔當工務所長ニ送付スベシ

第四條　各工務所長ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ左ノ區別ニ依リ之ヲ處理スベシ

一　自ラ修繕シ得ルモノハ現品ヲ廻送セシメ直ニ之ヲ執行スベシ但シ其ノ修繕容易ナルモ運搬困難ノモノニアリテハ技工ヲ派遣シ修理セシムベシ

二　自ラ修繕スルコト能ハザルモノハ電機修繕請求書ニ其ノ旨ヲ附記シ修繕擔當區域ニ從ヒ修繕係所在地工務所長ニ之ヲ移牒スベシ

修繕擔當區域ハ別表ノ通之ヲ定ム

第五條　前條第二號ニ依リ請求ヲ受ケタル工務所長ハ現品ヲ廻送セシメタル上左記ニ依リ之ヲ執行スベシ但シ其ノ運搬困難ノモノニアリテハ技工ヲ派遣シ之ヲ修繕セシムベシ

一　電機ノ修繕請求書竝ニ其ノ現品ヲ受領シタルトキハ破損又ハ不良箇所ヲ調査對照ノ上工作命令書(附錄第二號樣式)ヲ發行シ直ニ修繕ニ著手セシムベシ

二　工作ハ順序、方法及分擔者ヲ指示シ其ノ精巧進捗ヲ圖ルベシ

三　修繕完了シタルトキハ精密ナル試驗ヲ施シ完全ナリト認メタルトキハ其ノ成績ヲ命令書ニ記載シ現品ハ修繕請求局所ニ返送スベシ

四　電信機械類ノ修繕ニ在リテハ必要ニ應ジ試驗成績表(附錄第三號樣式)ヲ添附スベシ

五　修繕費ノ實費徵收ヲ要スルモノナルトキハ電機修繕費仕譯書(附錄第四號樣式)ヲ作成シ之ヲ當該請求局所長ニ送付スベシ

第六條　工務所長所在地外ノ各地ニ於ケル電機ノ修繕ハ其ノ地駐在ノ技術者　技手、工務員、技工、工手)ニ於テ第四條ニ準ジ處理シ其ノ地若ハ擔當工務所ニ於テ修繕スルコト能ハザルモノハ同條第二號樣式ニ依リ之ヲ處理スベシ

第七條　第三條乃至第六條ノ規定ハ工務所長及經理部保管ニ係ル電機ノ修繕ニ之ヲ準用ス

第八條　技術者巡回ノ際ハ各局所ノ電機ヲ點檢シ修繕ヲ要スルモノアルトキハ左ノ區別ニ依リ之ヲ處理スベシ

一　自己ノ擔當ニ屬スル電機ニシテ現場ニ於テ修繕シ得ルモノハ直ニ之ヲ執行シ若シ修繕スルコト能ハザルモノハ第四條ノ手續ヲ爲スベシ

二　自己ノ擔當ニ屬セザル電機ト雖モ現場ニ於テ修繕シ得ルモノハ直ニ之ヲ執行シ其ノ旨當該工務所長ニ通報スベシ若シ修繕スルコト能ハザル場合ハ電機修繕請求書ヲ發シ之ニ意見ヲ附記シ擔當工務所長ニ送付スベシ

第九條　各工務所長ニ於テ第四條第一號但書及第二號ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ旨直ニ請求局所ニ通報スベシ

第十條　電機ヲ送致又ハ受領シタルトキハ電機送付書(附錄第五號樣式)又ハ電機受領書(附錄第六號樣式)ヲ作成シ之ヲ交付スベシ

第十一條　修繕スルコト能ハザルモノ又ハ修繕ニ多額ノ費用ヲ要スルモノ若ハ修繕ノ著シク遲延スルモノハ其ノ事由及處理方ヲ具シ技術部長ノ指揮ヲ受クベシ

第十二條　各工務所長ハ每月電機修繕費報告(附錄第七號樣式)ヲ調製シ翌月五日迄ニ之ヲ其ノ所屬管理處長經由技術部長ニ提出スベシ

第十三條　修繕係所在ノ工務所長ハ每月電機修繕及製作數報告(附錄第八號樣式)ヲ、其ノ他ノ工務所長ハ電機修繕工程報告(附錄第九號樣式)ヲ調製シ翌月五日迄ニ之ヲ其ノ所屬管理處長經由技術部長ニ提出スベシ

第十四條　修繕係所在ノ工務所長ハ特ニ命令ニ依リ又ハ承認ヲ經テ電機ノ製作ヲ爲スコトヲ得

第十五條　電機ノ製作ヲ爲サムトスルトキハ圖案、設計及其ノ費額ヲ調査シ用途ノ說明ヲ附シ技術部長及經理部長ノ承認ヲ受クベシ

第十六條　修繕係所在ノ工務所長電機ノ製作命令ヲ受ケタルトキハ左記ニ依リ處理スベシ

一　工作命令書ニ相當事項ヲ記入シ設計書、圖面若ハ見本ニ依リ直ニ執行セシムベシ

二　工作品完成シタルトキハ使用材料、勞力ノ適否及仕上品ノ成績ヲ調査シ正確且善良ト認メタルトキハ勘定科目別品種毎ニ製作品報告（附錄第十號樣式）ヲ調製シ部所屬管理處長經由技術部長ヲ經テ之ヲ經理部長ニ提出スベシ

第十七條　各工務所ハ左記帳簿ヲ設備スベシ但シ修繕係所在地ノ工務所以外ノ工務所ニアリテハ第二以下ハ之ヲ要セズ

一　電機修繕工作原簿（附錄第十一號樣式）

二　電信機械類試驗成績登記簿（附錄第十二號樣式）

三　修繕實費調查原簿（附錄第十三號樣式）

四　作業日誌（附錄第十四號樣式）

附則

哈爾濱工務所ハ本規程ニ依ル修繕係ノ事務ヲ取扱フモノトス

別表

電機修繕擔當區域

修繕係所在地	修繕擔當區域
大連	大連工務所
	大連無線工務所
奉天	遼陽工務所
	奉天工務所
	鐵嶺工務所
	新京工務所
	安東工務所
	奉天無線工務所
哈爾濱	新京無線工務所
	奉天城內工務所
	錦州工務所
	安東舊市街工務所
	新京城內工務所
	吉林工務所
	哈爾濱工務所
	齊齊哈爾工務所

附錄樣式

第一號樣式

年　月　日

何局所又ハ何工務所長

何工務所長宛

電機修繕請求書

品名	數量	破損箇所	破損原因	使用局所名又ハ工務所名	返送場所

第二號樣式

工作命令書

昭和　年　月　日

命令番號第　號

品名	單位	工務所又ハ局所名	加入者電話番號	試驗者名	當務者名

起工	昭和　年　月　日　時　分
竣工	昭和　年　月　日　時　分
工作摘要	
使用材料	
延從事人員	
試驗成績	
同月日	
處理摘要	
同月日	
記事	

備考　一、修繕實費徵收ノ場合ハ其ノ旨記事欄ニ朱書スヘシ

二、工事完了セルトキハ工事要領、所要材料、從事時間等ヲ各相當欄ニ記入現品ト共ニ提出スヘシ

第三號樣式

試驗成績表

一 品名

二 數量

三 記號番號

四 成績

本品竣工試驗ノ結果右ノ成績ヲ得タリ依テ完全品ト認ム

年 月 日 何工務所長 氏名 ㊞

第四號樣式

電機修繕費仕譯書（對 第 號要求）

一金 總高

但シ昭和 年 月 日電話 番 ヨリ請求ニ係ル

箇修繕ニ要セシ實費額

起工 昭和 年 月 日

竣工 昭和 年 月 日

內譯

種別	單位	數量	單價	合價	備考
勞力費			円	円	
技工給料					日給金 圓 錢
材料費					一日服務 時間

昭和 年 月 日

何工務所長

第五號樣式

何局所長又ハ何工務所長宛

電機送付書

何局所長又ハ何工務所長

修繕請求年月日同番號	品名	數量	發送年月日	到著豫定年月日	發送方法	修繕箇所

備考　一　本送付書ハ現品ヲ發送スルトキ各局所又ハ工務所長ニ於テ之ヲ發スルモノトス

二　修繕箇所ノ欄ニハ實際修理ヲ加ヘタル箇所ニ記入スベシ修繕執行前ニ發スル送付書ニハ之ガ記入ヲ要セズ

第六號樣式

年　月　日

何局所長又ハ何工務所長宛

電機受領書

何局所長又ハ何工務所長

修繕請求年月日同番號	品名	數量	受領年月日	修繕執行濟豫定年月日

備考　一　本受領書ハ物品ヲ受領シタルトキ各局所又ハ工務所長ニ於テ之ヲ發スルモノトス

二　修繕執行濟ニ係ル電機ノ受領ニ對シテハ其ノ豫定年月日ノ記入ヲ要セズ

第七號樣式

年　月　日

技術科長宛

何工務所長

電機修繕費報告

年　月　分

年月日	文書番號	局名	債主氏名	金額	備考
				円	

備考　一　本報告ハ修繕實費徵收ノ爲歲入徵收者ヘ提出セシ電機修繕費報告書ノ每月分ヲ取纏メタルモノトス

二　年月日ハ前項報告書ヲ送付セル月日ヲ記入スルコト

三　債主氏名ハ何某外何名ト略記スルコトヲ得

四　一件五圓以上ノモノハ別ニ其ノ內譯ヲ添附スルコト

第八號樣式

年　月　日

技術科長宛

何工務所長

電機修繕及製作數報告

年　月　分

機械名	數量	記事
受付後二十日以內ニ修繕セシモノ		
受付後二十一日以後ニ修繕セシモノ		

備考　一　本報告ハ電信、自働電話、手働電話、雜品ニ區別スルコト

第九號樣式

年　月　日

何工務所長

技術科長宛

電機修繕工程報告

月分

品名	數量	修繕箇所	備考

備考　一　本報告ハ電信、自働電話、手働電話ニ區分スルコト

第十號樣式

年　月　日

何工務所長

經理科長宛

物品生産報告

命令年月日 同番號	品名	單位	數量	單價	合價	備考
				円	円	

內譯

種別	單位	數量	單價	合價	摘要
勞力費			円	円	
何々					
材料費					
何々					
合計					

第十一號樣式（用紙美濃紙）

電機修繕工作原簿

受付部								發送部				
主任	要求工務局所名	品名	數量	請求書到著月日	物品到著月日	命令月日	同上番號	修繕摘要	主任	修繕著手月日	竣工月日	發送月日	處理摘要

備考

一　各工務所ニ於テ直接修繕若ハ製作シタル物ノミヲ登記スルコト

第十二號樣式

電信機械類試驗成績登記簿

試驗月日	所屬工務局所名	機械名	機械番號	電氣抵抗		最小感動電流	感動幅	溫度	記事	主任

第十三號樣式

電機修繕實費調査原簿

主任	機械名	請求工務局所名及電話番號	加入者氏名	破損箇所	破損原因	修繕命令月日番號	起工月日	竣工月日

種別	單位	數量	單價	合價	備考
勞力費			円	円	
技工給料	時間				
材料費					
何々					
合計					

第十四號樣式

作業日記

月日 天候	曜日	工務所長	係長	主任	品名	所屬局所名	竣工數量

從業員 延人員	技工名 臨時傭名	人夫名	始業午前時 終業午後時

運轉機械	機械名	數量	使用延時間	記事

使用電力	K·W·H	備考

◆ **電信電話工事費豫算編成ニ關スル件**

昭和九年（康德元年）四月九日　技術部長ヨリ
技庶第二七〇號（例規）　各管理處長
各工務所長宛

起業費工事ノ爲支出シタル金額ガ資本勘定ニ於テ固定財產ノ價格トナリ又業務費支辨ノモノハ決算ニ依リ業務勘定ニ振替フルモノニ付工事ノ結果材料等ニ殘餘ヲ生ジタル場合ハ工務勘定ニ於ケル收支ニ差額ヲ來スノミナラズ支出額ト財產價格トニ差異ヲ生ズル結果トナルヲ以テ爾今豫算編成ニ際シテハ左記各號ニ留意シ工事殘品ハ成ルベク之ヲ最小限度ニ止ムル樣特ニ配意相成度

記

一　工事材料品ハ成ルベク實測又ハ精密調査ノ上實際ニ必要ナル數量ノミヲ計上シ安全ヲ見込ミ過分ノ豫備ヲ計上スルガ如キコトハ極力之ヲ避クルコト

二　起業費工事ニ屬スル豫算ニ對シテ計上セル電信、電話機械類ノ豫備品ハ豫備標準數ノミヲ計上スルコト

三　起業費工事ニ屬スル豫算ニ對シテハ「ケーブル」類其ノ他特殊品ハ幾分ノ維持用豫備ヲ見込ミタルモ該豫備品ハ業務費ニテ調達セラルルヲ以テ之等豫備品ハ一切計上セザルコト

四　工事命令後外部關係等ニ依リ設計變更ヲ餘儀ナクセラレ工事殘品ヲ生ズルガ如キ事情ノ發生ヲ

電信電話工事費豫算編成ニ關スル件

經理關係規定類

電信電話工事費豫算編成ニ關スル件

減少スル様充分調査ノ上豫算ヲ編成スルコト

五　工事殘品及再用品ハ極力之ヲ利用スルコトトシ豫算ヲ編成スルコト

六　工事ノ都合上運轉資料ヲ必要トスル場合ニハ成ルベク再用品ヲ流用スルコトトシ豫算ヲ編成スルコト

◆ **會計通則** 昭和八年(大同二年)九月一日
達第十六號

第一條　本會社ノ會計年度ハ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日迄トシ年度毎ニ決算スルモノトス

第二條　本會社ノ豫算及決算ハ日本國通貨建トス

第三條　本會社ノ計算ハ資本勘定、業務勘定及別途勘定ノ三種ニ區別シ更ニ事業ノ種類ニ依リ區分整理スルモノトス

第四條　資本勘定ハ資本ニ屬スル收支ヲ整理スルモノトス
貯藏物品ハ資本勘定ニ屬ス

第五條　業務勘定ハ營業上ノ收支ヲ整理スルモノトス

第六條　別途勘定ハ前記二勘定以外ノ收支ヲ整理スルモノトス

第七條　本會社ノ豫算ハ起業豫算及業務豫算ノ二種ニ區別ス

第八條　起業豫算トハ財產ノ取得新設若ハ增設ノ費用及改良工事ニ依リ增加スル財產ノ價額ニ對スル豫算ヲ謂フ

第九條　業務豫算トハ業務ニ關スル諸般ノ收入及經費竝財產ノ維持、保存ニ必要ナル復舊費、補充費

及修繕費ヲ謂フ

第十條　貯藏物品ハ受拂共購入實費ヲ以テ出納ヲ爲スモノトス但シ戻入品ニ付テハ見積價格ニ依ルモノトス

第十一條　資本勘定及業務勘定ニ關聯スル經費ハ當該年度ニ於ケル兩勘定ノ支出額ニ應ジ按分シタル金額以內ヲ資本勘定ノ負擔ト爲スコトヲ得

第十二條　社債ノ發行ニ因リ差損金ヲ生ジタルトキハ其ノ券面額ヲ帳簿ニ登記シ差損金ヲ明示スルモノトス

第十三條　法定積立金ハ缺損補塡ノ場合ニアラザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ザルモノトス

第十四條　帳簿ニ登記スル財產ノ價額ハ左ノ標準ニ依ルモノトス

一　有價證券ハ購入價格又ハ拂込金額ニ依ル但シ之ヲ登記シタル後其ノ市價著シク低落シタルトキハ年度末ニ於テ改定シ其ノ騰貴シタル場合ハ購入價格又ハ拂込金額ヲ限度トシ增加スルコトヲ得

二　契約保證金代用ノ有價證券ハ會社ニ於テ定メタル價格ニ依ル

三　寄附物件及寄附勞力ニ依リ建設シタル財產ハ見積價格ニ依ル

四　前各號ニ規定ナキ財產ハ決算額ヲ限度トシタル時價ニ依ル

第十五條　金錢又ハ物品ノ出納ハ總テ證憑書類ニ依ルモノトス

第十六條　金錢又ハ物品ヲ假ニ出納シタルトキハ假受又ハ假拂ト爲シ置キ遲滯ナク整理スルモノトス

第十七條　左ノ帳簿ヲ備ヘ各勘定ヲ整理スルモノトス

一　總勘定元帳

二　日記帳

三　現金出納帳

四　財產臺帳

五　各種補助簿

第十八條　每月左ノ計表ヲ作成スルモノトス

一　總勘定月報

二　起業費月報

三　業務勘定月報

◆豫算規程　昭和八年（大同二年）九月一日達第一七號

豫算規程目次

第一章　總　則……二八二
第二章　豫算ノ編成……二八二
第三章　豫算ノ執行……二八二
第四章　雜　則……二八三

◆ 豫算規程

第一章 總 則

第一條 豫算ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外本規定ニ依リ之ヲ取扱フベシ

第二條 豫算ノ編成ハ經理部之ヲ司掌ス

第三條 豫算資料ハ本社各部ヨリ之ヲ提出スルモノトス

第二章 豫算ノ編成

第四條 部長ハ各其ノ所管スル勘定ニ就キ左ノ概算資料ヲ經理部長ニ送付スベシ

一 新規起業ノ計畫豫算（增改設ヲ含ム）及之ニ附帶スル財產除却費

二 前號ニ伴ヒ當該年度ニ生ズベキ業務收支ノ增減

三 業務ノ增減、改廢其ノ他ニ依リ從來ノ豫算ニ增減ヲ必要トスルモノ

第五條 經理部長ハ現行豫算ヲ基礎トシ既往ノ實績及前條資料ヲ參酌シ各部長ト協議ノ上概算ヲ編成シ總裁ノ判定ヲ受ケタル後之ヲ當該部長ニ內示スベシ

第六條 部長ハ前條ノ內示ニ基キ各其ノ豫算資料ヲ作成シ所定ノ期日迄ニ經理部長ニ送付スベシ

第七條 經理部長ハ豫算資料ヲ查定シ各部長ト協議ノ上總豫算ヲ編成シ總裁ノ決裁ヲ受クベシ

第三章 豫算ノ執行

第八條 經理部長ハ申請ノ豫算ニ對シ日滿兩國政府ノ認可アリタルトキハ當該部長ニ豫算ノ內達ヲ爲スモノトス

第九條 豫算ハ其ノ目的外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ必要避クベカラザル不足ヲ補足センガ爲豫算ノ定額ヲ彼此流用セントスルトキハ經理部長ハ關係部長ト協議ノ上總裁ノ決裁ヲ受クベシ

第十條 經理部長ハ豫算ノ追加又ハ繰越ノ必要アリト認メタルトキハ關係部長ト協議ノ上總裁ノ決裁ヲ受クベシ

第十一條 經理部長ハ豫算ニ就キ一切ノ經理ヲ爲スベシ

第十二條 經理部長ハ每月豫決算差引對照表ヲ作成シ當該部長ニ送付スベシ

第四章 雜 則

第十三條 本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ經理部長之ヲ定ム

◆豫算規程施行細則

昭和八年(大同二年)九月一日
達第一八號

第一節　通　則

第一條　豫算事務ニ關シテハ豫算規程其ノ他特ニ定ムルモノノ外本細則ニ依ルモノトス

第二條　本細則ニ規程トアルハ豫算規程ヲ謂フ

第二節　豫算資料ノ編成

第三條　部長ハ前年度七月一日迄ニ概算資料(樣式第一號)三通ヲ作成シ經理部長ニ送付スルモノトス

第四條　總裁ノ判定ヲ受ケタル概算ハ前年度八月一日迄ニ之ヲ部長ニ內示スルモノトス

第五條　豫算資料ハ左ノ各號ニ依リ作成スルモノトス

一　起業費豫算資料(樣式第二號)ニハ左ノ事項ヲ揭記スルコト

イ　各事業ヲ件名別ニ配列シ一件毎ニ全費額(當該事業ニ要スル材料費、工費及割掛費其ノ他)及之ニ伴フ其ノ附帶經費ヲ別ニ計上シ之ガ算出根據ヲ詳記スルコト增改設ニ對シテハ增改設工事ヲ

豫算內譯書(樣式第三號)ヲ添附スベシ

ロ　他ノ事業又ハ業務收支ニ關聯ヲ有スル事業ハ各說明欄ニ之ガ連絡ヲ明記スルコト

ハ　主要ナル事業ニハ起業計畫書ヲ添附シ然ラザルモノニハ其ノ必要事由ヲ說明欄ニ明記スルコト

豫算規程施行細則

ニ　起業計畫書ニハ該事業ノ必要ナル事由、計畫ノ概要、施設後ノ效果及收支豫想ヲ詳記スルコト

ホ　二年以上ニ亘リ施行ヲ要スル事業ハ各年度割當額ヲ算出シタル繼續起業豫算內譯書（樣式第四號）ヲ（イ）號ノ書類ニ添附スルコト

ヘ　前項繼續事業ニ關聯シ必ズ施行ヲ要スルモノハ件名ヲ異ニスルモノト雖モ之ヲ主タル事業ノ一部ト看做シ其ノ豫算中ニ計上スルモノトス

二　業務豫算資料ノ內收入ニ關シテハ左ノ各號ニ依リ業務收入豫算（樣式第五號）ヲ作成スベシ

イ　數量　既往ノ實績並ニ當該年度ノ特殊事情ヲ考慮シ算出スルコト

ロ　單價　一定ノ料金又ハ單價アルモノハ之ニ依リ、其ノ定ナキモノハ相當資料ニ依リ算出シ其ノ算出根據ヲ明記スルコト

ハ　期間業務ノ開始又ハ廢止ニ伴フ收入ニ付テハ一箇年ニ滿タザルモノハ月數ヲ以テ計上スルコト

三　業務豫算資料ノ內支出ニ關シテハ左ノ各號ニ依リ業務支出豫算書（樣式第五號）ヲ作成スベシ

イ　人件費ハ資格、員數及金額ヲ明ニセル人件費調書ヲ添附スルコト

ロ　物件費ハ數量及單價ニ依リ算出スルコト

ハ　規定ノ數量アルモノハ其ノ定數以內トシ規定ノ數量ナキモノハ見積ヲ以テシ其ノ算出根據ヲ明記スルコト

ニ　物件ノ單價ハ用度課ニ於ケル配給單價、其ノ他ノモノニ付テハ適宜算出シ其ノ根據ヲ明記スルコト

ホ　法律、命令又ハ契約等ニ依ル費額ハ其ノ事由ヲ明記スルコト

ヘ　前揭以外ノ費額ニ付テハ相當資料ニ依リ之ヲ算出シ其ノ根據ヲ明記スルコト

四　別途勘定其ノ他特ニ指定セラレタルモノノ豫算資料ニ付テハ前二號業務豫算ニ準ジテ之ヲ作成スベシ

五　滿洲國幣又ハ其ノ他ノ特殊通貨ニ依ル收支ハ經理部長ノ指定セル換算率ニ依リ之ヲ日本國通貨ニ換算計上スベシ

六　豫算資料ハ各三通ヲ送付スベシ

第六條　規程第六條ニ依ル各勘定資料提出ノ期日ハ之ヲ前年度九月一日トス

第三節　豫算ノ編成

第七條　規定第七條ニ定ムル總豫算ノ提出期日左ノ如シ

一　營業勘定及共通費勘定ニ關スルモノ　前年度十月一日

二　起業費並ニ業務勘定ニ關スルモノ

三　起業費財源ニ關スルモノ

豫算規程施行細則

四　別途勘定（普通勘定、共通勘定ヲ除ク）ニ關スルモノ　前年度十一月一日

第八條　經理部長ハ左ノ調書ヲ作成シ前年度十月十五日迄ニ日滿兩國政府ニ對シ認可申請ノ手續ヲ爲スモノトス

一　起業計畫書
二　資金計畫書
三　起業豫算明細書
四　業務豫算明細書

第四節　豫算ノ執行

第九條　部長ハ內達豫算ニ基キ工事又ハ工作ノ施行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ設計條件及豫算金額ヲ指定シ該工事又ハ工作ヲ管掌スル部長ニ對シ之ガ要求ヲ爲スベシ

第十條　前條ノ要求ヲ受ケタル部長ハ豫算ノ範圍內ニ於テ工事又ハ工作施行伺ヲ作成シ仕樣書及圖面ヲ添ヘ關係部長ニ合議ノ上總裁ノ決裁ヲ受ケタル後工事又ハ工作ニ著手スベシ其ノ工事又ハ工作費額ノ增減竝ニ設計變更ニ付テモ亦同ジ

第十一條　經理部長ニ於テ豫算ノ追加、流用、繰越ヲ要スル場合ハ左ノ各號ニ依ル

一　豫算ノ不足又ハ豫算外ノ費途ヲ支辨セントスルトキハ追加豫算申請書（樣式

第六號ニ依リ申請スルモノトス

二　必要避クベカラザル不足ヲ補足センガ爲豫定ノ定額ヲ流用セムトスルトキハ流用豫算申請書（樣式第六號）ニ依リ其ノ事由ヲ申請スルモノトス但シ業務及作業減ニ伴フ各費目ノ剩餘ニ付テハ流用ヲ爲サズ

三　已ムヲ得ザル事由ニ因リ年度內ニ起業豫算ヲ使用シ難キトキハ起業豫算繰越調書（樣式第二號ニ準ズ）ヲ作成スルモノトス

第十二條　經理部長ハ起業豫決算對照表（樣式第七號）及業務豫決算對照表（樣式第四號）ヲ作成スルモノトス

第一號樣式

昭和　年度　費概算

豫算資料提出箇所名

科目	件名	金額	說明
			說明ハ判定ニ必要ナル樣詳細記入ノコト

第二號樣式

昭和　度起業費豫算

豫算資料提出箇所名

件名	事業費(款)						新設又ハ增改設	附帶經費(款)						說明
	項	目	單位	數量	單價	金額		項	目	單位	數量	單價	金額	

第三號樣式

昭和　　年度增改設工事豫算內譯書

款　　豫算資料提出箇所名

件名	科目		新工作物	舊工作物價額					說明
	項	目	價格	應用材料價格	倉庫戻入	賣却代金	業務經費支出額	合計	

第四號樣式

昭和　　年繼續起業費豫算內譯書

件名	科目		總金額	內譯								說明
				既往年度	前年度	本年度	次年度以降所要見込割當額					
	項	目		決算額	決定豫算額	昭和年度	昭和年度	昭和年度	昭和年度	昭和年度	昭和年度	

第五號樣式

昭和　　年度業務收入(支出)豫算

款

豫算資料提出箇所名

科目		金額	前年度豫算額	差引增減額	說明
項	目				

備考　說明欄ニハ當該年度豫算ノ內容ヲ明記シ差引增減額ノ大ナルモノニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルコト

第六號樣式

昭和　　年度事業費(營業支出)流用(追加)豫算申請書

豫算資料提出箇所名

使途							財源					
科目			件名	算出根據		金額	理由	科目			件名	金額	理由
款	項	目		單價	數量			款	項	目			

第七號樣式

昭和　　年度起業豫決算對照表

款　　豫算資料提出箇所名

件名	科目		豫算額	決算額	差引殘額			持越額說明
	項	目			剩餘額	次年度持越額	計	

第八號樣式

昭和　　年度業務收支豫決算對照表

款　　豫算資料提出箇所名

項目	豫算額	決算額	差引增減額	增減說明

◆決算規程

昭和八年(大同二年)九月一日
達第一九九號

決算規程目次

第一章　總　則……三〇一
第二章　帳簿及記帳……三〇一
第三章　傳票發行箇所……三〇二
第四章　雜　則……三〇二

決算規程

第一章　總　則

第一條　決算ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外本規程ニ依リ之ヲ取扱フベシ

第二條　決算ノ執行ハ經理部之ヲ司掌ス

第三條　決算ノ執行事務ハ經理部主計課長（以下主計課長ト稱ス）之ヲ司掌ス

第四條　經理部各課長、技術部庶務課長ハ所管事務ニ關スル決算ノ一部ヲ分掌スルモノトス

第五條　決算ハ日次、月次、半期及年度末ノ四種トス

第六條　主計課長決算ヲ爲シタルトキハ左ノ諸表ヲ作成スベシ

一　日次決算ニ在リテハ日計表

二　月次、半期及年度末決算ニ在リテハ月計貸借對照表、累計貸借對照表、各勘定內譯表、假勘定殘高內譯表、總勘定月報、起業費月報、業務勘定月報

第二章　帳簿及記帳

第七條　主計課ハ總勘定元帳及諸勘定內譯帳ヲ備ヘ每日勘定ノ增減ヲ記帳スベシ

第八條　主計課ニ於ケル記帳ノ日附ハ現金傳票ニ在リテハ實際現金出納ノ月日、振替傳票ニ在リテハ傳票受付ノ月日トス但シ傳票受付ノ月日ガ發行月日ト會計期ヲ異ニスルモノニ在リテハ發行月日ニ

依ルモノトス

第九條　年度内ニ支拂ヲ爲スベキ債務ニシテ年度末日迄ニ其ノ支拂ヲ爲サザルモノハ之ヲ未拂金勘定ニ振替整理スベシ

第十條　年度内ニ支拂ヲ受クベキ債權ニシテ年度末日迄ニ其ノ支拂ヲ受ケザルモノハ之ヲ未收金勘定ニ振替整理スベシ

第三章　傳票發行筒所

第十一條　現金傳票ノ發行ハ經理部會計課ニテ之ヲ爲スベシ

第十二條　振替傳票ノ發行ハ經理部各課及技術部庶務課ニ於テ各所管ニ從ヒ之ヲ爲スベシ

第四章　雜　則

第十三條　本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ經理部長之ヲ定ム

◆決算規程施行細則

昭和八年（大同二年）九月一日達　第二一〇號

決算規程施行細則目次

第一節　通　則……三〇五
第二節　傳票ノ發行竝ニ記載……三〇五
第三節　勘定整理……三〇七
第四節　日次計算……三〇九
第五節　月次計算……三一一
第六節　期末整理……三一一
第七節　期首整理……三一二
第八節　雜　則……三一二

決算規程施行細則

第一節　通　則

第一條　決算ニ關シテハ決算規程其ノ他特ニ定ムルモノノ外本細則ニ依ルモノトス

第二條　本細則ニ於テ規程トハ決算規程ヲ謂フ

第二節　傳票ノ發行竝ニ記載

第三條　現金傳票ハ規程第十一條ニ定ムル箇所ニ於テ第一號樣式ニ依リ一件毎ニ二通ヲ發行スベシ但シ他箇所ニテ記帳ヲ要スル勘定ニ付テハ一件毎ニ三通ヲ發行シ其ノ一通ヲ記帳ヲ要スル箇所ニ送付スベシ

第四條　直接現金ヲ收支セザルモ銀行貸借、爲替勘定又ハ社外ニ對スル債權、債務ヲ相殺スル場合等ニ於テハ總テ現金傳票ヲ發行スベシ

第五條　振替傳票ハ規程第三條竝ニ第四條ニ定ムル各課長ニ於テ第二號樣式ニ依リ一件毎ニ三通ヲ發行シ其ノ一通ヲ記帳ヲ要スル箇所ニ送付スベシ但シ主計課ニテハ他箇所ニ記帳ヲ要セザル勘定ニ限リ一件毎ニ二通ヲ發行スルモノトス

第六條　振替傳票ノ發行期日ハ左ノ各號ニ依ル

一　固定資產、流動資產ノ管理ヲ轉換スル振替傳票ハ其ノ轉換ノ日ヨリ五日以內

二　收入ヲ決定シ又ハ既ニ整理シタル收入ヲ變更セムトスル振替傳票ノ發行ハ金額決定ノ日ヨリ三日以内

三　工事又ハ工作完成ノ振替傳票ハ完成ノ時（工事又ハ工作進捗程度ニ依リ區別シ得ルモノニ在リテハ其ノ部分竣成ノ時）ヨリ二十日以内

四　貯藏品ノ保管ヲ轉換シタル場合又ハ物品ヲ配給シタル振替傳票ハ物品出庫ノ日又ハ物品配給ノ日ヨリ三日以内

五　整理勘定ヲ整理スル傳票ハ整理スベキ本科目ノ確定シタル日

六　既ニ整理シタル科目ヲ訂正シ又ハ支出ノ負擔箇所ヲ變更セムトスル振替傳票ハ訂正又ハ變更ヲ決定シタル日

第七條　振替傳票ニハ其ノ貸方及借方欄ノ双方ニ振替ノ事由、振替ノ相手科目、添附證憑ノ枚數ヲ記入スベシ

第八條　左ノ場合ニ於テ固定資產勘定ノ增減ヲ整理スル振替傳票ニハ其ノ摘要欄ニ「豫算無關係」ト朱記スベシ

一　固定資產勘定ニ決定シタル財產ヲ用途ノ變更又ハ整理ノ必要ニ依リ固定資產ノ他ノ科目ニ轉換スル場合

二　固定資產勘定ニ決算シタル財產ヲ賣却シ又ハ貯藏品ニ戻入スル場合

三　固定資產勘定ニ決算シタル財產ヲ除却スル場合

四　固定資產勘定ニ決算シタル財產ヲ償却スル場合

五　寄附受又ハ擔保流其他當該年度豫算ヲ使用セズシテ取得シタル財產ヲ固定資產勘定ニ決算スル場合

六　經費ニ振替ラレタル財產ヲ起業費ニ訂正スル場合

第九條　傳票ニハ異リタル款、項、目ヲ併記スルコトヲ得ズ但シ經理部長ノ承認ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第三節　勘定整理

第十條　支辨科目ヲ異ニスル諸給與金ハ左ノ各號區分ニ依ルベシ

一　所屬ヲ異ニスル轉勤者ノ諸給與ハ出發當日ヲ以テ新所屬箇所ノ負擔トス

二　轉勤旅費ハ新所屬箇所ノ負擔トス

三　助勤旅費ハ助勤ヲ受クル箇所ノ負擔トス

四　兩年度ニ亘ル出張者ノ旅費ハ十二月三十一日ヲ以テ各新舊年度別ニ精算スベシ

第十一條　社員ノ辨償金及過怠金ノ徵收費目ハ當該者ノ給與科目ノ相手收入科目トス

第十二條　業務勘定及別途勘定ノ戻入又ハ拂戻ノ科目ハ左ノ各號ニ依ル

一　支出ノ戻入ハ當該勘定ノ收入科目トス

二　收入ノ拂戻ハ總テ當該勘定ノ支出科目トス

三　當該年度內ニ於ケル收入又ハ支出ノ誤謬訂正ハ總テ原科目トス

第十三條　社外ヨリノ物件ノ寄附ヲ受ケタル場合ハ左ノ各號ニ依リ整理スベシ

一　起業費勘定ニ該當スル物件ハ評價格ヲ以テ當該事業ノ收入勘定ニ整理シ同時ニ當該起業費勘定ニ整理スベシ

二　業務勘定、別途勘定及之ニ準ズル勘定ニ該當スル物件ハ評價格ヲ以テ當該事業ノ收入勘定ニ整理シ同時ニ當該事業ノ支出勘定ニ整理スベシ

第十四條　勘定整理上生ズル錢位未滿ノ端數ハ法令又ハ商慣習其ノ他ニ依リ特定ノ計算方法ヲ定メアルモノノ外計算ニ必要ナル場合ニ限リ厘位以下ヲ計算スルモ記帳ノ計數ハ四捨五入シテ錢位ニ止ムルモノトス但シ確定セル合計額ヨリ內譯金額ヲ算出スル場合ニ在リテ厘位ヲ生ジタル際ハ金額ノ多寡ニ依リ適當ニ按排シ厘位ヲ切捨テ又ハ切上ゲ合計ニ於テ一致セシムルコト

第十五條　出納責任者支拂ノ要求ヲ受ケタルモノニシテ會計期末迄ニ支拂ヲ完了シ得ザル場合ハ當該勘定ニ對スル振替傳票ヲ發行シ現金傳票ノ科目ヲ未收金ト訂正シ現金傳票ニハ振替傳票ノ番號ヲ、振替傳票ニハ現金傳票ノ番號ヲ朱記スベシ但シ翌月定日拂ノ給與金ハ其ノ支拂當月分ノ勘定トシテ整理シ期末ニ際シ未拂金整理ノ手續ヲ要セズ

第十六條　出納責任者收納ノ要求ヲ受ケタルモノニシテ會計期末迄ニ收入ヲ完了シ得ザル場合ハ當該勘定ニ對スル振替傳票ヲ發行シ現金傳票ノ科目ヲ未收金ト訂正シ現金傳票ニハ振替傳票ノ番號ヲ、振替傳票ニハ現金傳票ノ番號ヲ朱記スベシ

第十七條　前二條ノ規定ハ六月末ニ於ケル半期決算ノ場合ニモ之ヲ適用スルモノトス

第十八條　期末決算ニ際シ豫算ニ計上シアル場合ト雖モ現實ニ支出原因ノ發生セザルモノニ在リテハ末拂金整理ト爲スコトヲ得ズ

第十九條　滿洲國幣及滿洲國幣ニ依ル預金其ノ他ニ對スル殘高ハ每日本社所在地ノ相場ニ依リ換算シ其ノ差額ヲ假受トシテ整理シ半期每ニ較差損益金ニ振替フ

第二十條　社定相場ヲ以テ調定シタル國幣建料金ニ對シ其ノ收納時ニ於テ換算率ヲ異ニシタル場合ハ前條ニ準ズ

第四節　日次決算

傳票管掌區分

第二十一條　主任出納責任者ハ每日自箇所發行ノ現金傳票ヲ一括シ改納傳票金額及支拂傳票金額ヲ各別ニ集計シ其ノ集計額ト現金出納簿ノ收支額トヲ照合シタル上電報ニ基キ代理發行シタル現金傳票ト共ニ總括收支金日報（樣式第三號）ニ添附シ主計課ニ廻付スベシ

第二十二條　主計課ニ於テハ毎日自箇所、經理部各課及技術部庶務課ノ發行シタル振替傳票ヲ一括シ借方金額及貸方金額ヲ各別ニ集計シタル上雙方集計額ヲ照合シ之ガ合致ヲ確ムルコト

日次別集計票作成

第二十三條　主計課ニ於テハ前二條ノ傳票ニ對シ勘定科目及證憑ノ正否ヲ審査シタル後勘定科目順ニ配列シ一會計期ヲ通ズル整理連續番號ヲ押捺スベシ

第二十四條　前條ノ手續ヲ了シタル傳票ヲ科目別（日別）ニ編綴シ科目別日計票（樣式第四號）ヲ作成添附スベシ

第二十五條　科目別日計票及總括收支金日數ニ依リ更ニ勘定別集計表（樣式第五號）ヲ作成シ貸方合計ト借方合計ヲ照合シ之ガ合致ヲ確メタル上日記帳ニ代ヘ日附ヲ趁テ整理保管スベシ

記帳

第二十六條　前條ノ取扱ヲ了シタルトキハ左ノ手續ニ依リ諸帳簿ノ記帳ヲ爲スベシ

一　元帳（樣式第六號）ハ「款」ニ依リ口座ヲ區分シ勘定別集計表及總括收支金日報ニ依リ之ヲ記帳スルコト

二　內譯簿（樣式第七號）ハ「目」ニ依リ口座ヲ區分シ第二十四條ノ整理ヲ了シタル傳票ニ依リ之ヲ記帳スルコト

三　業務勘定及別途勘定ノ內譯記錄ハ日次ノ集計ニ依リ各目ニ就キ豫決算ノ月次差引ヲ爲スコト

四　起業費ハ豫算有關係ノモノト豫算無關係ノモノト區分シ記帳スルコト

五　起業費支出ニ關シテハ件名豫決算差引簿ヲ備ヘ豫算額ト決算額トノ差引ヲ爲シ工事ニ在リテハ豫算額ト實施額トノ差引ヲ爲シ主管箇所ヘ提示スルコト

決算

第二十七條　前條ノ記帳ヲ了シタル後總勘定日計表（樣式第八號）ヲ作成スベシ

第五節　月次決算

第二十八條　主計課ニ於テ記帳日附ニ依ル每月末日分ノ記帳ヲ爲シタルトキハ內譯簿ト元帳トヲ照合シ之ガ合致ヲ確メタル後月計貸借對照表、累計貸借對照表（樣式第九號）及各勘定月次內譯表、假勘定月次內譯表（樣式第十號）ヲ作成スベシ

第六節　期末整理

第二十九條　主計課ハ會計期末日ノ決算ヲ了シタル後期末貸借對照表ヲ作成シ更ニ次條ノ整理ヲ爲スベシ

第三十條　期末ニ於ケル業務勘定ノ收入及支出ノ各殘高ハ利益勘定ニ整理シ其ノ他ノ各勘定殘高ニ對シテハ繰越日計表ヲ發行シ元帳ノ繰越記錄ヲ爲スベシ但シ半期決算ニ在リテハ締切及繰越ノ手續ヲ

省略ス

第七節　期首整理

第三十一條　年度切頭ニ於ケル繰越整理ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　第二十九條ニ依ル年度締切ノ整理ヲ了シタルトキハ繰越傳票ヲ發行シ更ニ傳票ニ依リ繰越日計表ヲ作成シ元帳ノ繰越記帳ヲ爲ス

二　各勘定內譯簿ノ繰越記錄ハ繰越日計表記載ノ總勘定ノ前期內譯簿各目殘高ヲ新規內譯簿各目口座ニ轉記スベシ但シ繰越明細ヲ必要トスル勘定ニ在リテハ件名別ニ轉記ヲ爲スベシ

第八節　維　則

第三十二條　第二十四條ニ依リ編綴シタル傳票ハ證憑ト共ニ月別科目別ニ整理保管スベシ

第一號樣式

（收　納）
支　拂　傳　票

發行番號
發行箇所　　年　月　日　　整理連續番號

款		項		目		收支責任者	出納責任者
摘　要		滿洲國幣		率	日本國通貨		
						主任者	主任者
						作成者	
（添附證憑　枚）	合　計						

第二號樣式

發行番號　　振　替　傳　票（借　方）　　整理連續番號

發行箇所　　昭和　年　月　日

（款）	（項）	（目）	金額		發行箇所長	
摘要			國幣建	日本貨建		
					主任者	
					作成者	
貸方科目（　　）　合計						
（添附證憑　　枚）						

發行番號　　振　替　傳　票（貸　方）　　整理連續番號

發行箇所　　昭和　年　月　日

（款）	（項）	（目）	金額		發行箇所長	
摘要			國幣建	日本貨建		
					主任者	
					作成者	
借方科目（　　）　合計						
（添附證憑　　枚）						

第三號樣式

主計課御中

No.

總括收支金日報

換算率金　　銀　　會計課

種別		前日殘 金	國幣	金建計	收入 金	國幣	金建計	支出 金	國幣	金建計	本日殘 金	國幣	金建計	備考
金勘定	現金													
	銀行													
	振替貯金													
	郵便貯金													
	他種貨幣													
	合計													
國幣勘定	現金													
	銀行													
	郵便貯金													
	合計													
金建總計	現金													
	銀行													
	振替貯金													
	郵便貯金													
	他種貨幣													
	合計													

第四號樣式

年　月　日

科目別日計票

借方		貸方	
金勘定	國幣勘定	金勘定	國幣勘定
	@-		@-
計 ¥		計 ¥	

科目

第五號樣式

年　月　日

勘定別集計表

勘定科目			借方				貸方			
款	項	目	金勘定	國幣勘定		合計	金勘定	國幣勘定		合計
				國幣	換算			國幣	換算	

第六號樣式

總勘定元帳

款

月日	摘要	借方					貸方					借/貸	殘高				
		金勘定	國幣勘定			金合建計	金勘定	國幣勘定			金合建計		金勘定	國幣勘定			金合建計
			國幣	@	金換算			國幣	@	金換算				國幣	@	金換算	
	繰越																
	繰越																

第七號樣式ノ一

內譯簿

款

項

目

豫算額

昭和年	摘要	借方	貸方	殘高	豫算殘高
	繰越				

第七號樣式ノ二

內　譯　簿

款

項

目

昭和年	整理月日	摘要	借方	貸方	差引殘高	備考

第七號樣式ノ三

內　譯　簿

款

項

目

昭和年	摘要	借方	貸方	差引殘高
	繰越			

第七號様式ノ四

内　訳　簿　（外國貨幣）

地別　　貨幣別

昭和年	摘要	借方 額面	借方 換算率	借方 換算額	貸方 額面	貸方 換算率	貸方 換算額	借又ハ貸	残引残額 額面	残引残額 換算額
	繰越									

第七號様式ノ五

内　訳　簿　（銀行貸借）

銀行別　　貨幣別

昭和年	摘要	借方 額面	借方 換算率	借方 金額	貸方 額面	貸方 換算率	貸方 金額	借又ハ貸	差引残高 額面	差引残高 金額

第八號樣式

總勘定日計表

年　月　日

借方			科目	貸方		
金	國幣	金建計		金	國幣	金建計
			合計			

第九號樣式

貸借對照表

（累計）

年　月　日

借方			科目	貸方		
前月末殘高	本月分	本月末殘高		本月末殘高	本月分	前月末殘高
			合計			

第十號甲樣式

各勘定月次內譯表

甲

年　月　日

科目	前月迄殘高	本月分 借方	本月分 貸方	本月末殘高	豫算額	豫算殘高

第十號乙樣式

假勘定月次內譯表

乙

年　月　日

科目	前月末殘高	本月分 借方	本月分 貸方	本月末殘高	備考

◆金錢出納規程

昭和八年（大同二年）九月一日達第七八號

金錢出納規程目次

第一章　總　則……三三三
第二章　出納責任者……三三三
第三章　收支責任者……三三四
第四章　出　納……三三四
第五章　資　金……三三六
第六章　監　督……三三六
第七章　雜　則……三三七

金錢出納規程

第一章　總　則

第一條　金錢ノ出納及保管ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外本規程ニ依リ之ヲ取扱フベシ

第二條　金錢ノ出納及保管ハ經理部之ヲ司掌ス

第三條　本規程ニ於テ金錢トハ日本國通貨、滿洲國貨幣法ニ定ムル通貨、銀行小切手、郵便爲替證書、郵便貯金拂戻證書、郵便振替貯金拂出證書、支拂通知書及別ニ經理部長ノ指定スル外國通貨ヲ謂フ

第四條　本規程ニ於テ部局所トハ本社各部、東京出張所、管理處、現業局所及工務所ヲ謂フ

第二章　出納責任者

第五條　經理部會計課長（以下會計課長ト稱ス）ヲ主任出納責任者ト定メ左ノ事務ヲ取扱ハシム

一　其ノ所管事務ニ伴フ金錢ノ出納及保管

二　社內全般ノ金錢ノ出納及保管ニ關スル事務ノ統轄

第六條　管理處經理料長、出張所長、現業局所長及工務所長ヲ分任出納責任者ト定メ左ノ事務ヲ取扱ハシム

一　所管事務ノ執行ニ伴フ金錢ノ收納

二　他箇所ノ取立委託ニ依ル金錢ノ收納
三　渡切經費、給與定額及會計課長ノ指示ニ依ル金錢ノ支拂

第七條　經理部長、出張所長、管理處長、現業局所長及工務所長ハ所屬員ヲ出納員ニ指定シ金錢出納事務ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得

第八條　主任出納責任者、分任出納責任者及出納員（以下出納責任者ト稱ス）ハ其ノ出納及保管ニ係ル金錢ニ付一切ノ責ニ任ジ其ノ所管事務ニ關シテハ主任出納責任者ノ區處ヲ受クベシ

第三章　收支責任者

第九條　出納責任者ニ對シ金錢ノ出納ヲ要求シ得ル者（以下收支責任者ト稱ス）ヲ各部局所長トス

第十條　收支責任者ハ所屬員ヲ代理收支責任者ニ指定シ其ノ事務ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得

第四章　出納

第十一條　收支責任者ハ金錢ノ收支事由發生ノ都度收支要求書類ヲ以テ遲滯ナク出納ノ要求ヲ爲スベシ

第十二條　出納責任者ハ前條ノ收支要求書類ニ依ルノ外金錢ノ出納ヲ爲スコトヲ得ズ但シ窓口ニテ收納スル電報料金其ノ他現金即納ヲ便トスルモノニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條　同一取引先ニ對シテ相殺シ得ベキ債權、債務ノ併存スル場合ハ其ノ對當額ニ於テ相殺ヲ爲

スベシ

第十四條　出納責任者ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ每日ノ出納ヲ登記スベシ但シ其ノ部局所ニ必要ナキ帳簿ハ備附クルコトヲ要セズ

一　金　現金出納簿
一　國幣　現金出納簿
一　金　銀行貸借內譯簿
一　國幣　銀行貸借內譯簿
一　金　郵便貯金內譯簿
一　國幣　郵便貯金內譯簿
一　金　郵便振替貯金內譯簿
一　國幣　雜種貨幣內譯簿
一　金　受取手形明細簿
一　國幣　受取手形明細簿

第十五條　分任出納責任者ハ當日ノ出納締切後收支金日報ヲ作成シ之ニ收支要求書及證憑書類ヲ添附シテ會計課長ニ送付スルト同時ニ其ノ內容ヲ電報ヲ以テ通知スベシ但シ現業局所及工務所ニ在リテ

ハ其ノ所轄管理處ニ收支金日報ノ寫ヲ送付スベシ

第五章　資　金

第十六條　分任出納責任者ハ其ノ收納金ヲ毎日主任出納責任者ノ指定シタル銀行又ハ郵便局ニ預入スベシ但シ主任出納責任者ノ特ニ指定シタル局所ニ限リ分任出納責任者ニ於テ保管スルコトヲ得

第十七條　分任出納責任者ハ別ニ定ムル限度ノ釣錢ヲ保管スルコトヲ得

前項ノ限度ハ主任出納責任者之ヲ定ム

第十八條　分任出納責任者ハ其ノ必要トスル支拂資金ヲ主任出納責任者ニ請求スベシ

第十九條　資金現送ノ場合ニ於テ其ノ保管ノ責任ハ資金到達ノ時ヲ以テ移轉スルモノトス

第二十條　主任出納責任者ハ翌月分ノ資金運用計畫ヲ爲スベシ

第六章　監　督

第二十一條　出納責任者ハ毎月末日出納檢査ヲ執行シ其ノ結果ヲ遲滯ナク經理部長ニ報告スベシ此ノ場合ニ於テ自ラ出納ヲ爲ス出納責任者ニ在リテハ其ノ次席者ヲ立會人トスベシ

前項ノ場合現業局所及工務所ノ報告ハ所轄管理處ヲ經由スベシ

出納責任者更迭ノ場合ニ於テモ亦前二項ニ準ジ檢査及報告ヲ爲スベシ

第二十二條　出納責任者ハ過誤拂、不良貨幣又ハ盜難等ニ因リ其ノ保管ニ係ル金錢ニ不足ヲ生ジタル場合ハ辨償スベシ但シ事由ヲ具シ經理部長ニ之ガ免責ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條　出納責任者其ノ取扱ニ係ル金錢ニ過剩ヲ生ジタルトキハ收入トシテ之ヲ處理シ其ノ旨經理部長ニ報告スベシ

第七章　雜　則

第二十四條　受取手形ノ出納保管ハ本規程ニ準ジ之ヲ爲スベシ

第二十五條　社員身元保證金、社內振替及擔保授受ニ依ル金錢ノ出納ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十六條　本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ經理部長之ヲ定ム

◆金錢出納規程施行細則

昭和八年（大同二年）九月一日
達第七九號

金錢出納規程施行細則目次

第一節　通　則……三四一
第二節　出納責任者……三四一
第三節　收支責任者……三四一
第四節　出　納……三四二
第五節　資　金……三四六
第六節　監　督……三四七
第七節　雜　則……三四八

金錢出納規程施行細則

第一節　通　則

第一條　金錢出納事務ニ關シテハ金錢出納規程其ノ他特ニ定ムルモノノ外本細則ニ依ルモノトス

第二條　本細則ニ規程トアルハ金錢出納規程ヲ謂フ

第三條　滿洲國貨幣法ニ定ムル國幣ト舊通貨トノ換算ハ法定率ニ依ルモノトス

第四條　規程第三條末段ニ定ムル外國貨幣ト日本國貨幣竝國幣トノ換算率ハ經理部長ノ定ムル所ニ依ル

第二節　出納責任者

第五條　局所長出納員ヲ指定シタルトキハ經理部長ニ屆出ヅベシ但シ現業局所ニ在リテハ所轄管理處ヲ經由スルコトヲ要ス

第三節　收支責任者

第六條　規程第十條ニ依リ收支責任者其ノ代理人ヲ指定シタルトキハ經理部長ニ屆出ヅベシ

第七條　收支責任者及其ノ代理人ハ收支要求書ニ押捺スベキ印鑑ヲ規程第五條及第六條ニ定ムル出納責任者ニ通知スベシ但シ現業局所長ニシテ出納分任者ヲ兼ヌルモノハ之レヲ省クコトヲ得

第八條　收支責任者更替シタル場合ニ於テ前任者ノ指定シタル代理人ハ其ノ解任ノ屆出ナキ限リ引續

キ指定サレタルモノト見做ス

第四節　出納

第九條　金錢出納ノ要求ハ各部長ハ主任出納責任者ニ管理處長ハ當該管理處分任出納責任者ニ出張所及現業局所長ハ當該局所分任出納責任者ニ之ヲ爲スベシ

第十條　收支責任者金錢出納ノ要求ヲ爲サントスルトキハ當該收支ノ正否及內示豫算又ハ委任ノ範圍ナルヤ否ヤヲ確ムベシ

前項ノ場合ニ於テ已ムヲ得ザル事情ニ依リ假受又ハ假拂トナス場合モ亦同ジ

第十一條　金錢收支ノ要求ハ收支要求書(樣式第一號)ヲ以テ之ヲ爲スベシ但シ支拂ニ限リ支拂傳票ヲ現金ノ卽納ヲ伴フ收入ニ限リ收納傳票ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十二條　金錢出納ノ要求書類ニハ必ズ左ノ事項ヲ記載シ收支責任者捺印スルコトヲ要ス

一　金額
二　取立又ハ支拂先
三　勘定科目
四　事由

五　假受又ハ假拂ノ要求書類ニハ終局ニ決算セラルベキ科目

第十三條　收支責任者支拂要求ヲ爲サントスル時ハ支拂先ヨリ提出ノ請求書ニ證憑書類ヲ添付シ支拂要求書ヲ作成ノ上之ヲ所管出納箇所ニ送付スベシ

第十四條　出納責任者前條ノ要求ヲ受ケタルトキハ其ノ收支ノ正否ヲ審査シタル上支拂ノ手續ヲ爲スベシ

第十五條　收支責任者ニ於テ相殺スベキ債權債務ノ出納ヲ所管金錢出納箇所ニ要求スル場合ハ出納要求書ニ夫々相殺スベキ債權債務アルコトヲ附記シ支拂要求ノ場合ハ取立要求書ヲ添付スベシ

第十六條　前條ノ要求ヲ受ケタル出納責任者ハ夫々取立又ハ支拂ノ手續ヲナシ相殺ノ上殘額ノ出納ヲ爲スベシ

第十七條　收支責任者ニ於テ法令又ハ裁判上ノ命令ニ依ル債權移動ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ旨支拂要求書ニ附記シ新債權者ノ氏名ヲ支拂先トシテ「何某代理何某」ト記載スベシ但シ委任受領ノ場合ニ於テハ「何某」ト記載スベシ

第十八條　金錢出納ノ計算上生ジタル錢位未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第十九條　收支ニ關シ適用スル外國貨幣ノ換算率及相場ハ左ノ各號ニ依ル

一　收入ノ場合

イ　日滿兩國貨幣建ノ債權ヲ外國貨幣ニテ收入スル場合ハ社定換算率ニ依ル

ロ　外國貨幣建債權ヲ日滿兩國貨幣ニテ收入スル場合ハ其ノ時ノ市場相場ニ依ル

ハ　外國貨幣建ノ債權ヲ同種ノ外國貨幣ニテ收入シタル場合ハ其ノ時ノ相場ニ依ル換算額ヲ記入スル

ニ　外國貨幣建ノ債權ヲ異種ノ外國貨幣ニテ收入スル場合ハ其ノ收入外國貨幣ヲ以テ建貨幣ヲ取得スル市場相場ニ依ル

ホ　前號ノ場合ニ於テ兩者間ニ建テラレタル直接ノ相場ナキトキハ他ノ貨幣ヲ介シ前各號ニ依リ換算スベシ

二　支拂ノ場合

イ　日滿兩國貨幣建ノ債務ヲ外國貨幣ニテ支拂フ場合ハ其ノ時ノ市場相場ニ依ル

ロ　外國貨幣建ノ債務ヲ日滿兩國貨幣ニテ支拂フ場合ハ其ノ時ノ市場相場ニ依ル

ハ　外國貨幣建ノ債務ヲ同種ノ外國貨幣ニテ支拂ヒタル場合ハ其ノ時ノ市場相場ニ依ル換算額ヲ記スベシ

第二十條　金額壹萬圓以上ノ支拂ヲ要求セントスルトキハ支拂期日六日以前ニ所管金錢出納責任者ニ通告スベシ

第二十一條　收支責任者取立依賴ヲ爲サントスルトキハ取立依賴書（樣式第二號）正副三通ヲ作成シ副

一通ハ自箇所ノ控トシ正副二通ヲ所管出納責任者ニ送付スベシ

第二十二條　出納責任者前條ノ要求書ニヨリ取立ヲ爲シタルトキハ取立金ヲ自箇所受入金ニ計理シ取立要求書副本ニ收納日附ヲ記入ノ上取立要求者ニ返送スベシ

第二十三條　出納責任者ハ金錢納入者ニ對シ其ノ職印ヲ押捺セル受領書ヲ交付スベシ但シ別ニ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條　受領證用紙ニハ自箇所ノ連續番號ヲ附シ出納責任者ニ於テ之ヲ保管スベシ

第二十五條　金錢ノ支拂ハ當該出納箇所ニ於テ左ノ事項ヲ具備シタル受領證ト引換ニ直接債主ニ之ヲ爲スベシ

一　受領證タル事ヲ表示スベキ文字

二　金額

三　事由

四　受領本人ノ住所及署名捺印又ハ記名捺印

五　受領年月日

六　受領宛先

第二十六條　支拂ノ爲メ送金ヲ要スル場合ハ銀行爲替、銀行振込送金、郵便爲替又ハ郵便振替貯金其

他一般普通送金方法ニ依ルベシ但シ債主ヨリ送金方法ニ付特別ノ要求アリタル場合ニシテ其ノ送金費用ヲ債主ニ於テ負擔スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條　送金ニ要シタル費用ハ出納箇所ノ支出トシテ之ヲ整理スベシ但シ前條但書ニ依リ債主ノ負擔スルモノハ其ノ費額ヲ支拂額ヨリ之ヲ控除ノ上出納箇所ノ收入トシテ整理スベシ

第二十八條　支拂要求書類ニ請求書ノ添付シアル場合ノ支拂ハ請求書ノ署名及印鑑ト受領證ノ署名及印鑑トヲ照合スベシ

第二十九條　收支金日報ノ作成ハ要求書ニ依リ勘定科目別ニ記載シ且手許殘高ハ金庫内殘金ニ依リ記入シタル後現金出納簿殘高ト照合ノ上出納責任者之ニ檢印スベシ

第三十條　規程第十四條ニ定ムル諸帳簿ハ出納ノ都度之ヲ記載シ毎日出納締切後帳簿ト現金トヲ照合シ出納責任者帳簿ニ檢印スベシ

第五節　資金

第三十一條　金庫ノ鍵ハ出納責任者之ヲ保管スベシ

第三十二條　資金ノ送附ハ銀行爲替又ハ郵便振替貯金ニ依ル但シ前記ノ方法ニ依ルコトヲ得ザル場合ハ左ノ各號ニ依リ現送スルコトヲ得

一　現送スベキ資金又ハ收入金ハ鎖鑰ヲ施シタル堅牢ナル容器ニ納メ現送箇所ノ出納責任者又ハ出納員ニ於テ立會者立會ノ下ニ其ノ容器ヲ開鎖シ直ニ現送金ヲ確ムルコト

二　資金又ハ收入金ノ現送ヲ受ケタルトキハ到著箇所ノ出納責任者又ハ出納員ニ於テ立會者立會ノ下ニ其ノ容器ヲ開鎖シ直ニ現送金ヲ確ムルコト

三　資金又ハ收入金ヲ現送シ又ハ之ヲ受領セル場合ハ直ニ其ノ旨相手箇所ニ通知スルコト

四　第一號第二號ノ立會者ハ當該局所在勤主席者（主席者事故アルトキハ次席者）ニ之ヲ命ズ

第六節　監督

第三十三條　出納檢査ハ左ノ各號ニ依リテ之ヲ爲スコト

一　現金出納簿殘高ト手許有高ヲ照合スルコト

二　銀行貸借内譯簿ト銀行預金通帳トヲ照合シ更ニ取引銀行ニ照會シ其ノ預金殘高證明書ノ交付ヲ受ケ之ト銀行預金通帳殘高トヲ照合スルコト

三　郵便振替貯金内譯簿ト受拂通知票トヲ照合シ更ニ内譯簿殘高ト其ノ月最後ノ受拂通知票殘高トヲ照合スルコト

四　郵便貯金内譯簿ト郵便貯金通帳トヲ照合スルコト

第二號ノ預金殘高證明書ハ檢査報告書ニ之ヲ添付スベシ

預金殘高證明書ト檢査報告書殘高ト符合セザルトキハ其ノ事由ヲ報告書ニ詳記スル事ヲ要ス

第三十四條　規程第二十一條第三項ノ場合ノ出納檢査ハ前任者後任者立會ノ上之ヲ爲スベシ

第七節　雜　則

第三十五條　金錢出納取扱時間ハ經理部長ノ承認ヲ經テ出納責任者之ヲ定ム

第三十六條　電報取扱所ニ於ケル電報ニ關スル料金、通話所ニ於ケル電話ニ關スル料金及公衆電話料金ノ取扱ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

樣式第1號　（復寫式）

發行番號　收支要求書

發行箇所　年　月　日　支拂又ハ納入先

（款）	（項）	（目）			
摘要	國幣	日本通貨	收支責任者	主任者	作成者
添付證憑					

様式第2號

No.……

年　月　日

宛先	御中臺	御中臺

取立依頼書

發行箇所

收支責任者	
出納責任者	

下記金額御取立ノ上指定科目ニ御整理相成度

取立先……

取立月日……

受入科目	款	項	目
摘要		金額	
	合計		

上記御取立ノ際ハ取立依頼書寫無洩經由箇所ヲ經當所宛御廻送被下度

收納月日	傳票番號

◆ **檢査報告書ニ關スル件**　昭和九年（康德元年）三月二十七日（會計課長ヨリ）經會第五〇五號（例規）（各局所長宛）

金錢出納規程第二十一條ニ依ル月末出納檢査報告書ニハ箇所長及立會人（次席者）ノ印ヲ押捺提出相成度

◆渡切經費經理規程

昭和八年(大同二年)九月一日
達第八〇號

渡切經費經理規程目次

第一章　總　則……三五五
第二章　範　圍……三五五
第三章　豫　算……三五五
第四章　交　付……三五六
第五章　整　理……三五六
第六章　異　動……三五七
第七章　檢査及報告……三五七
第八章　引　繼……三五八
第九章　請　負……三五八
附　則……三五九

渡切經費經理規程

第一章　總　則

第一條　渡切經費ノ取扱ニ付テハ特ニ定ムルモノノ外本規程ノ定ムル所ニ依ルベシ

第二條　本規程ニ於テ局所トハ管理處、現業局所及工務所ヲ謂フ

第二章　範　圍

第三條　局所ニ要スル左ノ經費（工事所要ノ經費ヲ除ク）ハ局所長ニ渡切ヲ以テ交付シ其ノ經理ヲ委任ス

備品費、帳表文具費、消耗品費、圖書及印刷費、交通通信費、車輛費、傭人料、賄費、委託事務取扱費、諸雜費

第四條　渡切經費ヲ以テ支辨スベキ種目ハ特ニ交付スルモノノ外別表ニ依ル但シ新調修理共材料工費ヲ含メ請負ハシメタルト特ニ材料ヲ購入シ職工ヲ傭入レ新調修理セシメタルトヲ問ハズ其ノ費用及之ニ伴フ運搬費ハ總テ本費ヨリ支辨スルモノトス

第五條　渡切經費ヲ以テ其ノ種目以外ノ費途ヲ支辨セントスルトキハ經理部長ノ承認ヲ受クベシ

第六條　渡切經費ノ使用出納保管等ニ關シテハ局所長一切ノ責ニ任ズルモノトス

第三章　豫　算

渡切經費經理規程

第七條　渡切經費ハ毎年經理部長ヨリ其ノ豫算ヲ局所長ニ内達ス

第八條　年度末ニ於テ渡切經費ニ殘額ヲ生ジタル場合ニハ翌年度ニ繰越使用スルモノトス

第四章　交付

第九條　渡切經費ハ毎月主任出納實任者ヨリ内達豫算ノ月割額ヲ交付ス但シ土地ノ狀況又ハ特殊ノ事由ニ依リ必要アリト認ムルトキハ數箇月分ヲ一時ニ交付スルコトヲ得

第十條　局所長死亡、退職又ハ更迭シタル場合ニ於テ代テ事務ノ執行ヲ命ゼラレタル者アルトキハ其ノ間渡切經費ハ當該者ニ之ヲ交付ス

第十一條　新ニ渡切經費ノ指定アリタリトキ、渡切經費ノ種目ヲ增加シタルトキ、渡切經費ノ額ヲ增減シタルトキ又ハ渡切經費ノ指定ヲ廢止シタルトキハ當月分ノ渡切經費ハ日割計算トス

第十二條　交付濟ニ係ル渡切經費月割額ニ異動ヲ生ジタルトキハ順次其ノ翌月ニ於テ增減ス但シ年度末ニ於テ減額ヲ要スル場合ニハ現金ヲ以テ返納スルモノトス

第五章　整理

第十三條　局所長ハ渡切經費ニ關シ左ノ帳簿ヲ備ヘ之ヲ整理スベシ

渡切經費受拂簿（樣式第一號）

渡切經費備品現在簿（樣式第二號）

前項ノ外必要ニ應ジ適宜帳簿ヲ備附クルコトヲ得

第十四條　渡切經費ノ支拂ニ對シテハ領收證書又ハ之ニ代ルベキ證憑書ヲ徵シ之ヲ當該局所ニ於テ保管スルモノトス

第十五條　渡切經費所屬物品ノ不用品ノ處分ハ物品規程ノ定ムル所ニ依ル

第六章　異動

第十六條　新ニ渡切經費交付ノ指定ヲ爲シ又ハ渡切經費支辨ノ種目ヲ增加シタル場合ニ於テ渡切經費ノ支辨ニ移ルベキ費途ニシテ支拂未濟又ハ物品ノ受入未濟ノモノアルトキハ其ノ前日現在ニ依リ渡切經費異動物品報告書（樣式第三號）ヲ作成シ經理部長ニ提出スベシ

第十七條　前條ノ場合ニ於テ渡切經費ノ支辨ニ移ルベキ費途ニシテ支拂未濟又ハ物品ノ受入未濟ノモノトシ速ニ支拂又ハ受入ヲ完了セシムベシ

第十八條　天災若ハ事變ニ依リ又ハ事業ノ伸縮若ハ規模ノ變更ニ依リ渡切經費支辨ノ費途ニ著シキ異動ヲ生ジタルトキハ渡切經費ノ交付金額ヲ增減スルコトアルベシ

第七章　檢査及報告

第十九條　經理部長又ハ其ノ指定者ハ渡切經費ノ經理ニ關シ檢査ヲ爲シ又ハ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二十條　局所長ハ年度經過後十日以内ニ當該年度渡切經費ニ關シ前年度繰越額、當年度交付額、使

用額及翌年度繰越額ヲ明記シタル年度末現在調書ヲ作成シ經理部長ニ提出スルモノトス

第八章　引　繼

第二十一條　局所長更迭、死亡又ハ退職ノ場合ニ於テ現存スル渡切經費ノ交付殘金及所屬物品ハ當該局所長又ハ其ノ代務者立會者立會ノ下ニ後任者ニ引繼グベシ

前項ノ立會者ハ當該局所在勤首席者（首席者事故アルトキハ次席者）トス

第二十二條　渡切經費交付ノ指定ヲ廢止シ又ハ渡切經費ノ種目ヲ減少シタル場合ニハ局所長ハ現存スル渡切經費ノ交付殘金及所屬物品ヲ經理部ニ引繼グベシ

第二十三條　前二條ニ依リ引繼ヲ了シタルトキハ引繼計算報告書（樣式第四號）ヲ調製シ十日以內ニ之ヲ經理部長ニ提出スベシ

第九章　請　負

第二十四條　特ニ指定スル局所ニ在リテハ第二章ニ定ムル經費ノ外給料、雜費及局舍料等ヲ一括シタル額ヲ局所長ニ交付シ其ノ經理ヲ請負ハシム

第二十五條　請負局所長ニ交付スル渡切經費ハ交付ノ時期ヲ以テ局所長ノ責任ニ歸シ一切ノ費途ヲ負擔スルモノトス

第二十六條　請負局所ノ渡切經費ニ付テハ前各章中第七條、第九條、第十一條及第十八條ノ外之ヲ適用セズ

第二十七條　請負局所長更迭、死亡又ハ退職ノ場合ニ於テ渡切經費ヲ數箇月分受領シ居ルトキハ前任前任者ハ其ノ殘存月及日ニ對スル月割額又ハ日割額竝ニ渡切經費支辨ノ物品ハ一切後任者ニ引繼グモノトス

附　則

奉天、哈爾賓管理處及兩管理處管內各局所ニ於ケル本年度渡切經費ノ經理ハ滿洲國從前ノ取扱ニ準ジ昭和九年度ヨリ本規程ノ定ムル所ニ依ルモノトス

別　表

渡切經費種目表

一備品費		
品目	定規	土瓶（蔓共）
	鋏	茶腕
	庖刀	茶筒
	簾	皿
硯箱（硯石共）	自在鍵	茶盆
尺度	油差	水差
提燈	石油ポンプ	水甕

灰皿
小刀
釘拔
ピンセット
吸取器
飾
石炭入（ストーブ用共）
炭入
十能
五徳
鍋、釜（蓋共）
鍬
スコップ
呼鈴
痰壺
匙
鎌

水漉
ランプ（附屬品共）
鉋
鉈
ボールド拭
額
漏斗
桝
截物板
截物定規
鏝
鑒
ヤットコ
捻廻（交付品ヲ除ク）
擔棒
バケツ
掲示板

糊壺
水平器
水入
石盤
海綿入
茶コボシ
急須
鉢
刷毛類（交付品ヲ除ク）
文具箱
鋸
鑪
柄杓
樽
桶
如露
拍子木

押釦
擂木
石油差
熊手
コンロ
蠟燭立
霧吹器
肉地
寒暖計
電話消毒器
煖爐用三ツ鐵具（臺共）
インキ壺
塵取
雪掻
風呂敷
幕
盤

打盤
金槌
木槌
錐
手挾
筆洗
書類籠
釣瓶（新營修繕ニ伴フ場合ヲ除ク）
井戸車（同右）
電鈴（交付品ヲ除ク）
文鎭
筆榻板
速寫版
謄寫版
文書刺
札刺
銀貨桝

行李
燈反射器
水流
燒印
栓拔
砥石
靴掻
靴拭
手拭掛
新閲掛
斧
藥鑵
錢籠
枕（枕覆共）
布製袋
ズック袋
印箱

火鉢（臺共）
製圖板
製圖器械
コンパス
下駄箱
黒板
物置臺
踏臺
算盤
書架
札掛
脚立
梯子
床掃除器
玄翁
洗面器
莨盆
水槽（新營修繕ニ伴フ場合ヲ除ク）
烏口
ペンチ（交付品ヲ除ク）
旗竿
薄綠
書類挾板（新聞挾共）
火入
二帳表文具費
各種式紙帳簿（交付品ヲ除ク）
半紙全面罫紙
半紙半面罫紙
美濃全面罫紙
美濃半面罫紙
製圖紙（布共）
吸取紙
板目紙
西洋紙
美濃紙
半紙
鳥ノ子紙
雁皮紙
塵紙
回議用紙
宇多紙
コロンペーパー
フールスカップ
壁紙
色入紙
礬水引紙
仙花紙
寒書
江戸川紙
西ノ内紙
程村紙
蠅取紙
模造紙
細川紙
不揃切紙
濾紙
袋紙
方眼紙
謄寫版原紙
包裝紙
朝鮮紙
帶紙
附箋紙
炭酸紙（交付品ヲ除ク）
海綿
筆
ボール紙
事務用封皮
名簿用紙
名簿
電報原書表紙
手帳
ゴム糊
洋紅
ペン先
ペン軸
各種墨（墨汁ヲ含ム）
印肉
印肉油
インキ（交付品ヲ除ク）
繪ノ具
繪刷毛
箒
羽
鐵筆
鉛筆（交付品ヲ除ク）
石筆
白墨
ゴム
消ゴム
鋲
留針
封蠟
指袋
活字（交付品ヲ除ク）
生
生麩糊
小麥粉
萬年糊
三消耗品費